The background features a vibrant, abstract geometric pattern. It consists of various shapes like squares, diamonds, and lines in shades of blue, yellow, green, pink, and red, arranged in a complex, overlapping manner. The colors are bright and saturated, creating a modern and energetic feel.

令和4年度  
学びに向かう力推進事業  
幼保小の架け橋プログラム事業  
取組のまとめ

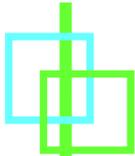
令和5年3月  
滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課





# 目次

はじめに	2
<b>研究指定校園の取組まとめ</b>	
<b>研究2年目</b>	
① 大津市立瀬田北幼稚園、瀬田北小学校	3
「自ら学び、未来を生き抜く瀬田北っ子の育成 ～『学びの芽生え』から『自覚的な学び』へのスムーズな接続を目指して～」	
資料 研究指定校園で作成した架け橋期カリキュラム 等	
<b>研究2年目</b>	
② 湖南市立平松こども園、三雲小学校	9
「自ら心を動かし主体的に行動する子どもの育成 ～自分の思いや考えを伝え合い学び合う子どもを目指して～」	
資料 研究指定校園で作成した架け橋期カリキュラム 等	
<b>研究1年目</b> 「幼保小の架け橋プログラム事業」指定校園	
③ 彦根市立彦根幼稚園、東保育園、私立聖ヨゼフこども園、るんびに一保育園、 彦根市立城東小学校	17
「目指す子どもの姿に迫る主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保育・授業の在り方 ～『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を踏まえた幼保小連携を通して～」	
資料 研究指定校園で作成した架け橋期カリキュラム 等	
<b>研究1年目</b>	
④ 守山市立認定こども園守山幼稚園、守山小学校	28
「気付き、考え、主体的に学ぶ子どもの育成 ～自立をめざした幼小連携を通して～」	
資料 研究指定校園で作成した架け橋期カリキュラム 等	
<b>研究1年目</b>	
⑤ 日野町立南比都佐幼稚園、こばと園、南比都佐小学校	34
「自分の思いや考えを表現できる環境づくりや支援の在り方 ～『育ち合う』子どもから『学び合う』子どもへ～」	
資料 研究指定校園で作成した架け橋期カリキュラム 等	



## はじめに

県教育委員会では、幼児教育と小学校教育の滑らかな接続を目指して、「学びに向かう力推進事業」を実施しています。令和2年度からは、研究指定の小学校に加配教員を配置し、週15時間程度、幼稚園等で保育に参画したり、打合せや保育の準備に参加したりできるようにしました。今年度も、各研究指定校園では、「学びに向かう力」の育成につながる指導内容や方法の工夫改善について、研究を推進していただきました。

また、今年度から新たに国の「架け橋プログラム事業」を受け、指定校園には、「架け橋期のカリキュラム作り」にお取り組みいただきました。滋賀県が開発した「滋賀県版カリキュラム枠」を土台に、期待する子ども像、期待する子ども像に関連がある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」、大切にしたいことなどについて話し合い、5歳児4月から1年生3月までの2年間、いわゆる「架け橋期」のカリキュラムを作成いただいたところです。

今年度、カリキュラムの作成等にかかわって、どの指定地域でも大切にいただいたことがあります。それは、「期待する子ども像を語る」「カリキュラムを語る」「実践を振り返り語る」「参観した子どもの姿から語る」の、4つの「語る」です。本事業の目的は、画一的なカリキュラムの作成ではありません。大人同士が「語る」ことを積み重ね、互いの保育・授業の質を向上させること、そして、幼保小の滑らかな接続を実現することです。

本事業の研究指定は2年間、架け橋プログラム事業については3年間です。研究2年目（2地域）、研究1年目（3地域）の取組を参考にしながら、それぞれの校園の実態に応じた幼児教育と小学校教育の連携や円滑な接続に努めていただきたいと思います。

最後になりましたが、本指定事業に熱心にお取り組みいただきました指定校園ならびに、指定校園の研究を支えていただきました市町教育委員会および幼児教育担当課の皆様、研究に協力いただいた職員の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和5年3月 滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

①

大津市立瀬田北幼稚園・瀬田北小学校

研究主題：自ら学び、未来を生き抜く瀬田北っ子の育成

～「学びの芽生え」から「自覚的な学び」へのスムーズな接続を目指して～

## 1 主題設定の理由

本地域は、学びに向かう力推進事業の指定校区2年目となる。本地域の児童の特徴として、課題に前向きに取り組むことができる一方、深く考えたり自分なりの思いや考えをもったり、主体的に実践する力に弱さがあったりすることから、昨年度より「自立心」をキーワードにして、取り組んできた。

そこで、この共通のキーワード「自立心」をもとに、幼小が同じ視点から子どもの育ちを見ることで、より「学びの芽生え」から「自覚的な学び」への滑らかな接続を行うためのヒントが見つかるのではないかと考え、この主題を設定した。

## 2 幼児教育と小学校教育をつなぐ取組や架け橋期カリキュラムに関する取組など

### (1) 実施した研修会等

実施日	対象		内容等
4月6日	幼小	幼小管理職、担当者、5歳児担任	加配教員の幼稚園勤務、本事業に向けた打合せ
6月10日	幼小	5歳児担任、第1学年担任、担当者	幼小交流会
8月5日	幼小	全教職員	大学教員からの講話、教職員の交流
9月7日	幼小	担当者、幼稚園職員	小学校の授業参観
9月8日	幼小	担当者、5歳児担任、幼管理職	加配教員による保育、指導主事からの指導講話
9月21日	幼小	担当者、幼稚園職員、小学校教員	研究授業・研究保育の参観→合同研究協議会
10月27日	幼小	全教職員	公開保育・公開授業→指導主事の指導講話
11月2日	幼小	担当者、幼稚園職員	小学校の授業参観
12月15日	幼小	5歳児担任、保育主任、担当者	・架け橋期カリキュラムの検討 ・5歳児アプローチカリキュラムの実践
1月18日	幼小	全職員	研究授業・研究保育の参観→合同研究協議会
2月9日	幼小	保育主任、5歳児担任、第1学年担任、担当者	架け橋期カリキュラムの検討
3月予定	幼小	保育主任、5歳児担任、第1学年担任、担当者	架け橋期カリキュラムの検討・最終確認

### (2) 加配教員の取組

#### ①保育への参画

5歳児クラスを中心に保育に参画した。子どもたちがいきいきとした様子で遊びに向かっている様子を見て、下記の通り小学校にもつながる学びの姿が幼児教育の中にたくさんあることに気付いた。

○いつでも自分で選んだり使ったりできる環境の中で、安心して自己を発揮している姿

○集団で取り組む遊びや、自然と友だちとつながる遊びを仕組むことで、友だちの姿に刺激を受けながら、成長していく姿

○実体験を大切に、それを表現活動に生かすことで、イメージを広げている姿

○毎日の遊びの「できた」や「なぜ?」の振り返りをすることで、意欲や探求心を高めている姿

どれも、小学校教育でも引き続き大切にしたい視点であり、よりスムーズに学習に向かっていく姿勢を身に付けるためにポイントとなる部分だといえる。

## ②架け橋期カリキュラムの作成に向けて

昨年度よりキーワードとなっている「自立心」を柱に、今年度は5歳児～1年生の2年間を見通したものに改善した。作成するにあたって、まずは互いの教育課程を知ることから始め、小学校では、教科等の枠をこえて、「自立心」の視点から、常に「大切にしたいこと」を明確にするようにした。そして、研究保育・授業等における子どもの姿から、子どもたちの心の動きや学んでいることを読み取り、吹き出しにして表すことで、カリキュラムを見る者が具体的な子どもの姿や場面をイメージしやすいようにした。来年度から本格的に実践する上で、子どもの姿と照らし合わせながら、日々の実践を見直すことができる生きたカリキュラムに検証・改善していく必要がある。

## 3 実践事例

### (1) 幼・小両教職員への加配通信の発行

年間を通じて定期的に加配通信「つなぐ通信」を作成し、幼児教育における遊びの中の学びや、幼稚園と小学校での共通した学びの姿について両教職員に発信した。「環境」「友だちとのつながり」「振り返り」など、ポイントに沿って内容を整理し、小学校教育に生かすために必要な視点を加えることによって、接続に関してより理解が深まるようにした。



【「つなぐ通信」】

### (2) 職員合同研修

夏季休業期間中に、幼小全職員を対象にした研修会を実施し、連携・接続について学ぶ機会を設けた。「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について研修し、保育室や教室の環境を10の姿の視点で共に考えた。また、「心もつながる」ことを目的に、新聞を使ったレクリエーションを行った。職員同士の仲を深めるだけではなく、協同性や思考力の芽生えなど、実際に体験することで10の姿について理解を深めることもできた。



【幼小全体研修会の様子】

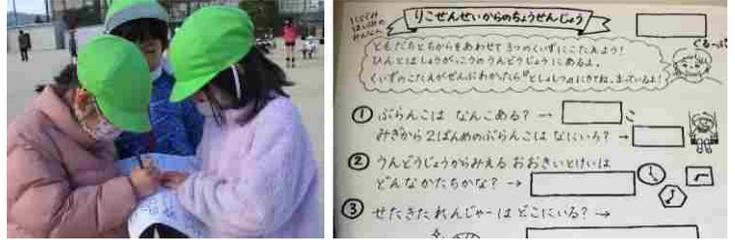
### (3) 5歳児アプローチカリキュラムの実践

これまでの園と小学校の子どもたちの交流において、小学校からの招待ではじまり、5歳児がお客さんのように参加する活動にとどまってしまうがちだという課題があった。そこで、5歳児が主体的に小学校生活に興味をもち、自分たちの発意のもと活動を生み出すために、以下のような方法で交流を行うことにした。

【第1回】園児が小学校の運動場を見て、リレー練習に興味をもったことをきっかけに、1年生に手紙を送り、小学校の運動場で1年生と一緒にリレーを行った。

【第2回】加配教員から園児への挑戦状をきっかけにし、小学校の運動場でスタンプラリーの活動を行った後、図書室で本を読んだり、加配教員にクイズの丸付けをしてもらったりした。

(第3回も、同様の内容で実施予定)



【友だちと協力してクイズを解く園児たち】

#### (4) 保育体験

加配教員が、5歳児クラスでなわとびを使った簡単な運動やゲームを一斉保育という形で行った。しかし、子どもたちそれぞれが自分の思いをもつ中で一律の活動を展開させていくことは難しく、1つのゴールに向かって学んでいく小学校における授業とは違う難しさを実感することができた。「子どもたちの思いがどこにあるのか」ということを意識しながら関わることの大切さや、子どもが目一杯向き合い充実感や達成感を味わうためには、次々に活動が展開していく必要はなく、しっかりと時間を保障することが大切であると学んだ。そしてこれは、小学校の授業においても意識すべきポイントだと感じた。



【加配教員による保育】

## 4 研究の成果と課題

### (1) 成果

- ・幼小両職員が互いの園や学校へ出向いたことにより、子どもたちやそれを取り巻く教育環境の実態について理解を深めることができた。特に小学校の教員は、研究保育後の協議会に参加することによって、子どもたちが遊びからどのようなことを学んでいるのか、またそのために幼稚園教員がどのような環境や支援をしているのかということを知ることができた。
- ・架け橋期カリキュラムの作成において、共通の視点「自立心」を柱に、5歳児～1年生の2年間を見通したものに改善することができた。また、子どもの姿から読み取ったことを事例として残すことで、目指す姿に沿った具体的な様子が伝わるようにした。今後も幼小がつながるための手がかりにしていきたい。

### (2) 課題

- ・幼小が互いの教育を理解することで、意識が変わった部分や、子どもたちへの関わりにはどのような変化があったかを、共有・整理する場を設けることができなかった。

## 5 今後に向けて

- ・互いの保育や授業を参観したり、協議に参加したりする機会を今後も持ち続けることによって、校園全体が、幼小の接続について考えていきたい。
- ・継続して、子どもの実態に合わせた架け橋期カリキュラムになるように見直し・改善していく。

5歳児		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3			
期待する子ども像		◎心豊かに表現できる子ども ◎自ら学びやり遂げる子ども ◎心通わせ共に育ち合う子ども					
幼児期の終わりまでに育てたい10の姿	自立心	<ul style="list-style-type: none"> <li>○5歳児になった喜びを感じる</li> <li>○新しい環境や遊びに自ら関わる</li> <li>○好きな遊びを見つけ、試したり工夫したりする</li> <li>○気の合う友だちに思いを伝えながら遊びを楽しむ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分なりの目的をもって挑戦し、カー杯取り組む満足感を味わう</li> <li>○様々な経験を通してイメージや表現を豊かに広げ、遊びに取り入れていこうとする</li> <li>○友だちと言葉や行動を通して思いや力を出し合いながら遊びを進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遊びや生活に見通しをもち、クラスの友だちと共通の目的に向けて取り組み、共にやり遂げた喜びや満足感を味わう</li> <li>○相手の思いを感じ、互いのよさを認め合って共に生活する楽しさを感じる</li> <li>○一年生になることの期待と喜びをもち、園生活を意欲的に生き生きと過ごす</li> </ul>			
大切にしたいこと（指導のポイント）	環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりのやり方、選び方、試し方、繰り返しができる</li> <li>・友だちの姿（手元・声）に自分で気付ける</li> <li>・貸し借りができる</li> <li>・遊んだことが振り返れる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの経験を生かせる材料、用具、道具を自ら選び使いこなす</li> <li>・新たなイメージや手応えが深まる</li> <li>・目的に向かって試行錯誤したり、相談したり、発表したりできる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験したことやイメージしたことをより具体的にこだわって表現し伝えることができる</li> <li>・クラスのみんなや、友だちと協力して一つのことに向かって取り組む楽しさや達成感を体験する</li> </ul>			
	先生の関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で決めたり進めたりする中で、一人一人の思い、よさ（気付き、工夫）を受容し言葉にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりの達成感を共感し、意味付け（意識化）する</li> <li>・自分の思い、友だちの考えを分かろうとする機会をつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割や目的を意識し、できることや考えたことを実現したり解決したりするために模索していくきっかけをつくる</li> </ul>			
主な教育課程・予想される活動	<p>☆活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの姿</li> </ul> <p>（園内研修において「自立心を育てている姿」を分析するうえで『安心』…<input type="checkbox"/> 『やりたい』…<input type="checkbox"/> 『もっと』…<input type="checkbox"/> 『つながる』…<input type="checkbox"/> ）</p> <p>◇幼小職員による見取りのポイント</p>	<p>&lt;大きい組になったよ&gt;</p> <p>&lt;自分たちで生活を&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい環境の中で先生や友だちと触れ合ったり、生活の仕方を知ったり、再確認したりしながら安心して過ごす。</li> <li>・5歳児になった喜びを感じる。（3,4歳児との交流等）</li> <li>・自分なりに遊びの準備をしたり、片付けたり、大切に扱ったりする。</li> </ul> <p>&lt;楽しいことみつけたよ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい遊びや材料道具、素材に関心をもち、遊び方を知ったり、自分なりの遊び方を考えたり試したりする。</li> <li>・自分のやりたい遊びを見つけて思う存分取り組む。</li> <li>・同じ場にいる友だちのことに関心をもち、気の合う友だちと一緒に遊んだりする。（砂場、泥だんご、色水、虫とり等）</li> </ul> <p>&lt;体をいっぱい動かして遊ぼう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動遊びに興味や自分なりの目的をもち繰り返しやってみようとする。（鉄棒、巧技台、縄跳び、板登り等）</li> <li>・自分の体に関心をもち、健康や安全に気をつけて遊ぶ。</li> <li>・手洗いの必要性を感じ、自ら進んでしようとする。</li> </ul> <p>&lt;地域と関わる&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園周辺に散歩に出かけたり、地域の方を招待したりする。</li> </ul>	<p>☆草花を使って遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちがつくっている色水を見ようと机の周りを歩いている。<input type="checkbox"/>、<input type="checkbox"/></li> </ul> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「これは色つくかな？」といろいろな花をすりこぎですりつぶす。<input type="checkbox"/></li> <li>・オレンジの皮に水をふりかけ、「こうやったらできるかも」と自分の思いついたやり方を試すが思うようにいかない。<input type="checkbox"/>、<input type="checkbox"/></li> </ul> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちが使っている材料や道具、やり方を見て、自分もオレンジの皮をすりおろすが、色がつかず困る。友だちのつくったオレンジ水を見て、「なんで？」と驚きうらやましがる。<input type="checkbox"/>、<input type="checkbox"/>、<input type="checkbox"/></li> <li>・オレンジの皮を色が出るまであきらめられないですり続ける。<input type="checkbox"/></li> <li>・友だちのすりおろした水がオレンジになるのを見て、「やって」と頼む。<input type="checkbox"/></li> </ul> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちが「どうやったの？」と尋ねられたことに対して、やってあげようとする。<input type="checkbox"/></li> </ul> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できた色水の色の違いに気づく。友だちや教師にも見せる。<input type="checkbox"/>、<input type="checkbox"/></li> </ul> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色水に使っていたオレンジの皮の残りで「ゼリーにしよう」と集める。<input type="checkbox"/></li> </ul> <p>◇試しの中で予想と結果を繰り返す楽しさがある。</p> <p>◇自分の結果を求めている。</p> <p>◇友だちと響き合っている。</p>	<p>&lt;いっぱい体を動かそう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挑戦しながら、自分なりのやり方を考え、目的をもち繰り返し取り組み、やり遂げたことに自信をもつ。</li> <li>・友だちと教え合ったり励まし合ったりして取り組み中で、お互いの頑張りに気付いたり認めたりして刺激や手応えを感じる。</li> <li>・共通の目的に向かってクラスの友だちと一緒に気持ちや力を合わせて取り組もうとする。</li> </ul> <p>&lt;気付いたよ、考えたよ、やってみたよ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的やイメージに合わせて材料や用具を選び、試したり、工夫したりしてつくる。</li> <li>・遊びや生活に必要な材料、道具を考えたり自分で調べたりしながら思いを実現しようとする。</li> <li>・生活に見通しをもち、場を整えたり、健康や安全な生活のために必要なことは進んでする。</li> <li>・いろいろな用具の使い方を知り、用途に応じて選んだり、使ったり片付けたりする。</li> <li>・遊びの中で様々なものに触れ、形、数、長さ、重さ等、物の性質や仕組み、文字に関心をもち、</li> </ul> <p>&lt;友だちと一緒に遊びをつくらう&gt;</p> <p>&lt;仲間と一緒に遊んでみよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの経験を生かし、友だちと一緒に遊びの場をつくらうとする。</li> <li>・友だちのしている遊びの面白さを感じ、自分の遊びに取り入れようとする。</li> <li>・友だちとイメージを共有したり、思いや考えを出し合ったり力を合わせたりして、自分たちで考えたことを実現しようとする。</li> </ul> <p>&lt;身近な社会の出来事と出会う&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園外に出て、公共のマナーを守ったり、安全に気をつけて行動したりする。</li> <li>・生活の場を整理したり、次への遊びの準備をしたりすることで、友だちと一緒に心地よく過ごせる場を自分たちで整えていく。</li> </ul> <p>&lt;いろいろな人に親しみをもつ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3、4歳児との関わりを通して、相手の立場に立って考え、何とかしようとする。</li> <li>・小学生や先生との出会いを喜んだり、小学校に憧れや興味関心をもちたりする。</li> </ul>	<p>☆リレーをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バトン、アンカーたすきを全て身に着け、トラック線をかき、三角コーンを並べる。<input type="checkbox"/></li> <li>・ゴールテープをもつ役、実況中継をするマイク役がゴールに立って待っている。<input type="checkbox"/></li> </ul> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紫チームが多く緑チームが足りなくて、「紫はするい」「するくない」と言い合いになる。<input type="checkbox"/></li> <li>・教師が「どうしたらリレーできるのかな」と投げかける。<input type="checkbox"/></li> </ul> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近くで見ている友だちに「一緒にやろう」「入って」と誘う。<input type="checkbox"/>、<input type="checkbox"/></li> <li>・チームにわかれて並ぶと、隣が誰か確認し、「勝負だ」と言い合ったり、一緒に走る友だちの速さを意識して順番を変えようとしたりする。<input type="checkbox"/>、<input type="checkbox"/>、<input type="checkbox"/></li> </ul> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・途中で走るのをやめてしまう友だちがいて困ったり、怒ったりする。<input type="checkbox"/></li> <li>・教師がそれぞれの気持ちを皆に伝えるよう補いながら、どうしたらよいか考えを出し合う雰囲気をつくる。<input type="checkbox"/>、<input type="checkbox"/></li> </ul> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「順番変える？」「一緒に走る？」「負けてもまたできる」「次は勝とう」「手を振ったらいい」と相手も自分も励ます。<input type="checkbox"/>、<input type="checkbox"/></li> </ul> <p>◇経験と意欲が繋がっている。</p> <p>◇自分たちで進んでいきたい。</p> <p>◇友だちのことがわかり、相手の思いを想像している。</p>	<p>&lt;仲間と共に&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの目的に向かって計画したり準備したりしながら、仲間意識をもって遊びを進め、共にやり遂げた達成感を味わう。</li> <li>・友だちの思いに心を寄せたり経験したことを思い出ししたりして、相手の立場になって考え、折り合いをつけながら、一緒に遊びを進めていこうとする。</li> <li>・友だちから認められたり自分のよさが生かされたりすることに喜びを感じ、自信をもって生活する。</li> <li>・仲間とルールのある遊びを楽しみ、進める。</li> <li>・こま回しや剣玉など、できるようになったことを喜び、友だち同士で教え合う。</li> <li>・数字や文字、記号、図形、量などに興味をもち、遊びの中に取り入れたり生かしたりする。</li> <li>・縄跳び、ドッジボール、鬼ごっこ等に取り組み、進んで体を動かそうとする。</li> </ul> <p>&lt;自ら生活をすすめよう&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一日の生活の流れや行事など、見通しをもって取り組みクラスの一員として自分の役割を果たそうとする。</li> <li>・今までの経験から、自分たちの遊びに必要な場や物を考え用意していく。</li> <li>・周囲の状況に応じて自分なりに考えて行動しようとする。</li> <li>・自分の体や健康に関心をもち、進んで病気の予防をしようとする。</li> </ul> <p>&lt;もうすぐ修了、一年生&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3、4歳児との関わりの中で、自分達の成長を感じ、気持ちを寄せて関わろうとする。</li> <li>・地域の人やお世話になった人との関わりを喜び、親しみの気持ちや感謝の気持ちを言葉や態度で伝える。</li> <li>・一年生になることへの喜びや期待をもち、意欲的に活動に取り組む。</li> <li>・地域の人やお世話になった人への感謝の気持ちを言葉や態度で表す。</li> <li>・出前授業や小学校との交流を通して、一年生になることに期待をもち、</li> </ul>	<p>☆劇遊びをする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の体験から「大根の種を植えて、大根ができる話をつくりたい」と言う。<input type="checkbox"/></li> </ul> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「育った大根が遊びにいくことにしよう」と土から芽が出る様子や大きくなって出かける様子を表現しだすA児。<input type="checkbox"/>、<input type="checkbox"/>、<input type="checkbox"/></li> </ul> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大根が困っていたら、忍者が助けるのはどう？」「水がなくて枯れそうになってることにする？」「雑草がいっぱいで動けないことにする？」と栽培活動を通して大根を育てる際に苦労したことを思い出す子どもたち。<input type="checkbox"/></li> </ul> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・劇遊びが進む中、A児が「大根の役を一人でするのはさびしい」と訴える。<input type="checkbox"/>、<input type="checkbox"/></li> </ul> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「Aちゃんかわいそうだから誰かと一緒にする？」「僕は忍者がしたいしなあ」「2つの役をしてもよかったらするけど」とA児の不安に寄り添おうとしながら葛藤する友だち。<input type="checkbox"/></li> <li>・「一人でも上手だよ！」とA児の演技をほめる友だち。</li> <li>・「大根が友だちを探しにいくことにしたらさみしくないよ！」というアイデアに「いいね」と共感し、さらにお話づくりが広がっていく。<input type="checkbox"/>、<input type="checkbox"/></li> </ul> <p>◇経験を遊びや考えに取り入れれている。</p> <p>◇自分たちで考え、実現することに手応えを感じている。</p> <p>◇自分や相手の思いを認め、よりよい考えを導き出そうとしている。</p>

第1学年		1学期	2学期	3学期			
期待する子ども像		◎人を思いやり、自分を大切にできる子ども ◎自ら学び、創り出す子ども ◎たくましく、しなやかな心と体をもつ子ども					
幼児期の終わりまでに育てたい10の姿	自立心	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1年生になった喜びを感じる</li> <li>○新しい環境や学習に自ら関わる</li> <li>○不安なことや困ったことを相手に伝える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の目標をもって挑戦し、一杯取り組む満足感を味わう</li> <li>○様々な経験を通して、イメージや表現を豊かに広げ、学習に取り入れていこうとする</li> <li>○友だちと言葉や行動を通して思いやりを出し合いながら学習を進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校生活に見通しをもち、よりよい学校生活になるように工夫して行動できるようにする</li> <li>○自らの力を発揮し、やり遂げた達成感を味わう</li> <li>○生活の中で相手の思いを感じ、互いのよさを認め合って共に生活する楽しさを感じる</li> <li>○成長した自分を実感し、自信をもって次の学年への期待をもっている。</li> </ul>			
大切にしたいこと	環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の流れがわかり、見通しをもつことができる掲示</li> <li>・学びのあとがわかり、ふりかえったり、たしかめたりすることができる</li> <li>・話す人の方を見て集中して話を聞いたり、友だちに自分の思いを話そうとしたりできる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し試したり、確かめたりすることができる</li> <li>・経験したことを、様々な活動の中で、生かすことができる</li> <li>・ペアやグループで活動することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いを自分の選んだ方法で実現することができる</li> <li>・これまでを振り返り、自分の成長を感じ、それを発揮することができる</li> </ul>			
	先生の関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話にしっかりと耳を傾け、安心できるようにする</li> <li>・「やってみたい」気持ちになる授業の導入の工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が決めたことに自信をもって前向きに取り組むことができるように、見通しをもたせる・認める・あたたかい言葉で励ます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の学年へ向けて、期待や希望をもつことができる前向きな言葉かけ</li> <li>・子どもたちがこれまでの経験やつけた力を生かして自分で考え、工夫しながら生活や学習を進めていくことができるように見守る</li> </ul>			
主な教育課程 予想される活動 ☆活動内容 ・子どもの姿 ◇幼小職員による見取りのポイント		<p><b>&lt;1年生になったよ&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい環境や人の中で、学校生活の仕方を知り、安心して過ごす。</li> <li>・1日の見通しをもち、自分で朝や帰りの用意、授業の準備をする。</li> <li>・学校の施設（トイレ、教室、特別教室、校庭等）の使い方を知り、約束を守って使う。</li> <li>・学習道具の使い方を知り、大切に扱う。</li> </ul> <p><b>&lt;学習との出会い&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に書いている絵や文字・数字などに感心をもつ。</li> <li>・学習に取り組む姿勢や、話を聞くとときの姿勢を身につける。</li> <li>・幼稚園で経験したことをもとにして、自分なりに考えたり試したりする。</li> </ul> <p><b>&lt;新しい人との出会い&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出会った先生やともだちにきもちのよいあいさつをする。</li> <li>・名前を呼ばれたら、返事をする。(はい、～です。)</li> <li>・自分の思いが相手にわかるように話す。(遊びに入れてほしいとき・困っているときなど)</li> </ul>	<p><b>☆生活科「がっこうだいすき」</b></p> <p>休み時間の過ごし方や教室の使い方を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休み時間に行ける場所をみんなで見に行く</li> <li>↓</li> <li>・「これ、何に使うの?」「幼稚園と一緒だ」と、興味をもって見る</li> <li>・「やりたい」と感じ触ってみようとする</li> <li>・使ってもよいか聞く</li> <li>↓</li> <li>・教師と、使ってもよい時間や使い方を考える</li> <li>◇これまでの経験を思い出している</li> <li>◇新しい環境の中で、どのように過ごせばよいのかを考えている</li> </ul> <p><b>☆国語科「ひらがな」</b></p> <p>知っている言葉を集めたり、体全体を使って書き順を確認したりしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「つ」のつく言葉を考える</li> <li>↓</li> <li>・それぞれが自分の思いついた言葉を使う</li> <li>↓</li> <li>・自分が発表した言葉を教師が板書しているところを嬉しそうに見たり、次の言葉を考えてたりしている</li> <li>・友だちの言葉を聞いて、「長いな」「つが2つ入っているね」と話している</li> <li>↓</li> <li>・みんなで発表した言葉をいろんな読み方で読むことを楽しんでいる</li> <li>◇「知っている」「わかる」を味わっている</li> <li>◇友だちの発表を聞いて、反応したり、自分の考えにつなげたりしている</li> </ul>	<p><b>&lt;北リンピックに向けて&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいことに対して前向きにとらえ、練習を重ねることで、最後までやり遂げたことに自信をもつ。</li> <li>・友だちと教え合ったり励まし合ったりして取り組む中で、お互いの頑張りや気付いたり認めたりして刺激や手応えを感じる。</li> <li>・目標に向かって学級の友だちと一緒に気持ちや力を合わせて取り組もうとする。</li> </ul> <p><b>&lt;友だちと一緒に考えよう&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語文や、絵本を読んで、自分の感じたことを表現したり、友だちの考えを聴いたりする。</li> <li>・友だちの考えを聴いて、自分の学習に取り入れようとする。</li> <li>・友だちとイメージを共有したり、思いや考えを出し合ったり力を合わせたりして、自分たちで考えたことを実現しようとする。</li> </ul> <p><b>&lt;身近な社会の出来事と出会う&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校外に出て、公共のマナーを守ったり、安全に気をつけて行動したりする。</li> </ul>	<p><b>☆体育科・学級活動「運動会」</b></p> <p>自分のめあてを決めてがんばろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北リンピックに向かってリレーやダンスの練習をする</li> <li>↓</li> <li>・「たのしい」「だいせいこうしたい」「はしるのをがんばりたい」のように、自分が考えていることをめあてとしてカードに書いている</li> <li>↓</li> <li>・「しんけん」「心はひとつ」「いっぱいれんしゅう」の3つの視点をもとに、毎回の練習を振り返り、「手がいたくなるまでがんばった」「いどうのとき、急いで走った」</li> <li>◇活動から、自分ががんばったことをふりかえることができる</li> <li>◇友だちの姿に刺激を受けて、自分の活動に生かそうとしている</li> </ul> <p><b>☆算数科「かたちあそび」</b></p> <p>いろいろなかたちを使って身の回りのものを作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はこの特徴に注目しながら、作る</li> <li>↓</li> <li>・幼児期の遊びの経験を思い出しながら、かたちを組み合わせている</li> <li>・「こっこのほうが高くなる」「タイヤはまるいやつが必要」と言葉を交わしながら、作りたいものを形にしようとする</li> <li>↓</li> <li>・友だちと協力して作ることをできたことを喜んでいる</li> <li>◇課題の達成に向けて友だちと意思を出し合っている。</li> <li>◇これまでの経験を生かしながら、考えたり工夫したりしている</li> </ul>	<p><b>&lt;共に学習をすすめよう&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちの思いに心を寄せたり経験したりしたことを思い出し、様々な考えを尊重しながら話し合うことができる。</li> <li>・自分の考えを表現することや、それが友だちに認められる喜びを感じ、自信をもって学習を進めようとする。</li> </ul> <p><b>&lt;自ら生活をすすめよう&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一日の生活の流れや行事など、見通しをもって取り組みクラスの一員として自分の役割を果たそうとする。</li> <li>・周囲の状況に応じて自分なりに考えて行動しようとする。</li> <li>・自分の体や健康に関心をもち、進んで病気の予防をしようとする。</li> </ul> <p><b>&lt;もうすぐ2年生&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お世話になった人との関わりを喜び、親しみの気持ちや感謝の気持ちを言葉や態度で伝える。</li> <li>・2年生になることへの喜びや期待をもち、意欲的に活動に取り組む。</li> <li>・生活科の、2年生になることに期待をもつ。</li> </ul>	<p><b>☆国語科「たぬきの糸車」</b></p> <p>物語を読んで出てきた疑問について話し合おう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「なぜ、おかみさんはたぬきをにがしたのか」について話し合う</li> <li>↓</li> <li>・「かわいそうだったから」「見ているのがすぎだったから」「まずそうだったから」など、様々な意見を出し合っている。</li> <li>↓</li> <li>・「ああ～」「どうということ?」と反応している。</li> <li>・「だって(教科書に)〇〇って書いてある」「じゃあ、これって、～ってこと?」と、友だちの考えにつなげて話している。</li> <li>◇自分の意見を安心して話すことができる</li> <li>◇様々な意見を取り入れながら、問題解決しようとしている</li> </ul> <p>☆朝・帰りの会、次の活動のはじまりなど、区切りの時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「長い針が〇になったで」と全体に声を掛ける子がいる</li> <li>↓</li> <li>・当番が前に出る、用意・片付けをする、まだの子に声をかけるなど、それぞれが適切な行動を選ぶことができる。</li> <li>◇これまでの経験を生かし、見通しをもって行動することができる</li> </ul>

## 瀬田北小学校 スタートカリキュラム 週案（第1週）

### この時期に育てたい 「自立心」の姿

- ◎1年生になった喜びを感じる
- ◎新しい環境や学習に自ら関わる
- ◎不安なことや困ったことを相手に伝える

### ぽかぽかタイム

手遊びやゲームをしたり、読み聞かせをしたりして心と身体がほぐれるような時間にする。リラックスして、一日のスタートが切れるように！！

### ☆環境☆

- ・朝の用意の仕方の掲示
- ・1日の流れがわかる掲示
- ・終了時間がわかる工夫（時計に印を貼るなど）

### ☆登校後・中休みの過ごし方☆

- ・絵をかく
- ・折り紙
- ・絵本を読む

### ☆絵本☆

「しょうがっこうへいこう」  
「いちねんせいのいちにち」

### ☆歌☆

「1年生マーチ」  
「ありがとうの花」

週間目標	1年生になったことに喜びを感じ、意欲的に活動に取り組むことができる。									
実施日	2日目		3日目		4日目		5日目		6日目	
月日	4月10日（月）		4月11日（火）		4月12日（水）		4月13日（木）		4月14日（金）	
登校後	席にすわって待つ		朝のしたく（トイレ、荷物の片付け）を自分でする							
8:20~ 8:45	荷物のかたづけ方を知ろう		朝の会（あいさつ・健康観察・持ち物の確認・今日の予定）							
8:45~ 9:00	朝の会（あいさつ・健康観察・持ち物の確認・今日の予定）									
9:00~ 9:15	ぽかぽかタイム（歌・手遊び・ゲーム・体操・読み聞かせなど）									
1	学	担任自己紹介 （1年担任）	学	トイレや手洗い場の使い方	学	個人写真をとる	国	いすの座り方 返事の仕方	算	数あそび
9:00~ 9:30										
2	学	引き出しの使い方 提出物の出し方 教科書配布	学	休み時間の過ごし方や 教室の使い方	学	瀬田北小学校の3つの 約束を知ろう （あいさつ・そうじ・ きく）	生	がっこうだいすき① 校庭にあるものをみつけよう	生	がっこうだいすき② 学校の中をみんなである こう
9:35 ~ 10:05										
中休み	なかよし広場→◎ 運動場は2週目から									
3	学	帰りの用意の仕方 下校の並び方	学	傘立てや靴箱の使い方  帰りの会	国	国語の教科書を開いて みよう  帰りの会	生	校庭でみつけたものを発 表しよう 帰りの会	生	がっこうの中でみつけた ものを発表しよう 帰りの会
10:40 ~ 11:25										
	11:40完全下校		11:40完全下校		11:40完全下校		11:40完全下校		11:40完全下校	

②

湖南省立平松こども園・三雲小学校

研究主題：自ら心を動かし主体的に行動する子どもの育成

～自分の思いや考えを伝え合い学び合う子どもを目指して～

## 1 主題設定の理由

本校は甲西中学校区に属し、集団づくりや学力向上において就学前教育から中学校までの目指す子どもの姿を追究しながら交流を行ってきた。学びに向かう力推進事業1年目の昨年度は、自分の思いや考えを伝え合い学び合う子どもを目指して、保育や授業研究を行ったり架け橋期カリキュラムを作成したりして研究を深めてきた。研究2年目となる今年度も、こども園では「まずは心の土台を育み、安心して自分の思いを表現できること、そして自分の思いを相手に伝え合いながら試行錯誤を積み重ね達成感を感じ取ること」、小学校では、「自分の思いや考えを伝え合い学びを深めていくこと」をポイントに研究を深めてきた。5歳児と1年生との接続のみに留まることなく、0歳児から5歳児、そして1年生の「伝え合う力」を中心に学びへのつながりを系統的にとらえ、主体的な学びを目指した保育や授業改善に取り組んでいくとともに、校区内の他の幼児施設(保育園、幼稚園)とも共有していきたいと考える。

## 2 幼児教育と小学校教育をつなぐ取組や架け橋期カリキュラムに関する取組など

## (1)実施した研修会等

実施日	対象	内容等
4月12日	こ・小管理職、担当者	・顔合わせ、事業確認 ・加配教員のこども園での勤務に関する打合せ ・合同研究テーマ話し合い、実施計画作成
6月 2日	こ・小管理職、5歳児担任、1年生担任、担当者	保幼小連絡会(1年生授業公開、情報交流)
6月15日	こども園全職員、担当者	・保育参観 ・研修会(大学教授の指導講話)
7月 5日	こ・小管理職、5歳児担任、1年生担任、担当者	・研究の進捗状況の確認 ・架け橋期カリキュラム作成について ・県教委指導主事からの指導講話
7月25日	1年生担任、担当者	・公開授業指導案検討 ・架け橋期カリキュラム作成
8月 1日	こ・小管理職、5歳児担任、1年生担任、担当者	・研究の進捗状況の確認 ・架け橋期カリキュラム作成について
8月23日	小管理職、1年生担任、担当者	・架け橋期カリキュラム検討 ・公開授業指導案検討
9月12日	こ・小管理職、担当者	・研究の進捗状況の確認 ・公開研修会に向けて
11月 8日	こども園職員、担当者	・保育参観 ・公開保育指導案検討
11月17日	こ・小管理職、担当者	公開研修会(3、4、5才児公開保育 1年生公開授業 県指導主事の訪問 大学教授の講演)
2月16日	こ・小管理職、5歳児担任、1年生担任、担当者	保幼小連絡会(新1年生についての情報交流)
3月 予定	こ・小管理職、5歳児担任、1年生担任、担当者	・研究のまとめ ・架け橋期カリキュラムの検討(来年度において)

## (2)加配教員の取組

### ◆保育への参画、園内研究、学年会への参加

平松こども園に週2日、5歳児の2クラスの保育に交互に参画した。今年度も5歳児クラス担任と週案と日案を共有し、その日の主な活動のねらいと「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」を確認し、保育に参画した。そこで感じたことは、保育者が一つひとつの活動を積み重ねていく中で、子どもたちの育ちをまるごととらえ、その子どもに応じた場面で「きらり」と輝く伸びを見つけて、子どもたちとともに喜んだり認め合ったりすることで、集団が高まっていくということである。一人ひとりが輝き、お互いに認め合える集団づくりは小学校にもつないでいきたい点である。

また、園内研究会では、0歳児から5歳児のそれぞれの発達段階に応じた保育内容や子どもの姿を共有しながら、連続した育ちを支えていく援助や環境について話し合った。子どもたちが主体的な遊びを繰り返し、充実感や達成感を味わいながら成長していく学びの連続性を小学校につないでいくことが大切である。

### ◆加配通信「きらりⅡ」の作成と配布

今年度の加配通信は、こども園と小学校の子どもたちの活動を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」とカリキュラムでの目指す姿をポイントにとらえ、見取った姿とともに、それらの学びのつながりが意識できるようにした。特に1年生の4~7月の子どもたちの様子とともに、昨年度こども園で培った力を小学校でどのように発揮しているのか、そのための支援はどうだったかということも考察し、通信にすることで、こども園と小学校の職員が、スタートカリキュラムがどのように行われているのかについて共有することができた。

### ◆架け橋期カリキュラムの検証と改善【別添資料①】

昨年度作成した接続期カリキュラムをもとに、5歳児の4月から1年生の3月までの2年間を見通した架け橋期カリキュラムを作成し、実践を積み上げてきた。子どもたちが安心して生活できることがすべての活動を支えたとらえ、「じぶんだいすき ともだちだいすき」をキーワードに「安心して自分が出せる環境」「互いを認め、受け入れる仲間」「一人ひとりを大切にする関わり」をポイントとした。幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)のうち、「自立心」「協同性」「言葉による伝え合い」を重点に目指す姿を具体的に考えた。

また、こども園からのスムーズな移行を目指し、スタートカリキュラムの充実を図った。45分の枠にとらわれないことなく子どもたちの姿を見ながら弾力的に進めるようにした。入学当初は、園での時間の流れに沿うように、読み聞かせをしたり手遊びをしたりしながら全員が揃うのを待ち、朝の挨拶や健康観察を行うことで、落ち着いて授業に向かうことができた。



【朝の会の様子】

## 3 実践事例

### (1)スタートカリキュラムの取組【別添資料②】

#### ◆安心できる環境づくり(なかよしタイム)

幼児教育からのスムーズな移行を目指して、スタートカリキュラムの中に「なかよしタイム」「わくわくタイム」「ぐんぐんタイム」の3つの時間を設けた。学習の内容は次のとおりである。

なかよしタイム	… 一人ひとりが安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことをねらいとする学習
わくわくタイム	… 生活科を中心とした合科的、関連的な学習
ぐんぐんタイム	… 教科を中心とした学習

まず入学当初のなかよしタイムでは、「なかよくなるう」というめあてのもと、いろいろなテーマについて自己紹介をする機会を5回設けたり、学級全員で遊んだりして、お互いを知り安心できる環境づくりに努めた。架け橋期カリキュラムにある「じぶんだいすき ともだちだいすき」のキーワードのように、一人ひとり輝き、お互いに認め合える集団づくりの第一歩だと考える。



【「なかよしタイム」の様子】

#### ◆学びのサイクル(わくわくタイム)【別添資料③】

1年生の4月から7月まで生活科「いくぞ!がっこうたんけんたい」を中心に、学級活動や国語科、図画工作科と関連させて合科的な学習に取り組んだ。こども園で培った「伝え合う力」を発揮して、探検する場所や約束を決めたり、活動の後の振り返りをしたりして、次の学習に生かすことができた。「やってみよう」気持ちを大切に、自分たちで協力しながら学習をつないでいくことで、達成感を感じるとともに友だちと学ぶ楽しさも体感することができた。



【「わくわくタイム」の様子】

#### (2) 研究テーマにせまる保育・授業づくり

##### ◆途切れない成長を小学校につなぐ

0歳児から5歳児までの子どもを保育しているこども園では、子ども一人ひとりのありのままの姿を受け止め、思いに寄り添いながら、安心できる環境の中で遊び込めるよう、発達段階に応じた保育内容や環境の充実に努めてきた。保育者が、子どもたちのやりたい気持ちを受け止めながら、子どもの気持ちを言葉で言い表したり、自分でやってみようとする姿を見守り励ましたりすることで培われた「自己表現力」や「自立心」は、小学校での学びの土台となると考える。

##### ◆「伝え合う力」を育むサークルタイム

5歳児のクラスでは、子どもたちが輪になって話をするサークルタイムを取り入れた。自分たちで楽しいことやがんばっていることを出し合ったり、困っていることなどを解決しようとしたりする姿を保育者は見守り、子どもたちに任せたり、時には話の方向を見直す言葉かけをしたりしながら、できるだけ子ども中心で話ができるようにしてきた。友だちの顔が見られることで、安心して意見が言えたり、友だちの気持ちに寄り添いながら話を聞いたりできるようになってきた。



【「サークルタイム」の様子】

また、このサークルタイムを続けることで、リーダーシップをとる子どもが出てきたり、子どもたち同士が折り合いをつける経験になってきたりしていることは、大きな育ちであり小学校につないでいきたい力である。

##### ◆主体的な学習と伝え合う力

1年生の子どもたちが幼児期に培ってきた力をもとに主体的に学習に向かうためには、思わず心が動き、やってみたくなる活動があり、子どもたち自らが明確なめあてをもつことが大切である。生活科の「あきとなかよし」の学習では、「幼稚園児を招待して楽しんでもらいたい」というめあてのもと、友だちと協力して試行錯誤を繰り返しながら活動を進めていった。その過程で、自分の思いや考えを伝えたり聞き合ったりして、安心できる集団の中で子どもたちそれぞれが達成感を得ることができた。

## 4 研究の成果と課題

### ◆成果

- ・架け橋期カリキュラムを作成し実践することで、5歳児から1年生の2年間を見通した子どもたちの育ちを意識した活動や振り返りができるようになってきた。
- ・スタートカリキュラムで、生活科を軸とした合科的・関連的な学習を計画し、実施することができた。

### ◆課題

- ・三雲小学校と平松こども園との連携、接続は深まってきたが、校区内の他の幼児教育施設(保育園幼稚園)との交流が十分ではないため、接続についての共通した取組を行う必要がある。

## 5 今後に向けて

今後もこれまでの研究を生かして、幼児教育と小学校教育の相互理解に留まらず、0歳児から5歳児、こども園から小学校への途切れない成長を目指した保育や授業づくりを進めていきたい。そのために、保育園やこども園、幼稚園と小学校との連絡会を充実させ、今年度作成した架け橋期カリキュラムをもとにして、子どもの実態に合わせて改善、実践するとともに、学校全体で幼児期からの学びを生かした主体的な学びを目指した授業改善を進めていきたい。

		5 歳児			第 1 学年							
時期		4・5・6・7・8	9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7・8	9・10・11・12	1・2・3					
めざす子ども像		友だちと共に過ごすことを心地よく感じながら、自己発揮できる子ども			目的に向かって、自分なりに試行錯誤したり、友だちと協力したりしながら意欲的に取り組む子ども							
幼稚園の終わりに、ほしいうまの姿で育つて	健康な心と体 自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 言葉による伝え合い 自然との関わり 生命尊重 数量や図形・標識 文字などへの関心・感覚 思考力の芽生え 豊かな感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な環境に積極的に関わりながら、やりたいことを見つけて遊ぶ。</li> <li>友だちと関わる中で嬉しい、悔しい、楽しいなど様々な感情体験を味わい、友だちとの関わりを深める。</li> </ul> <p>【伝え合う力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安心して自分の思いを表現する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育者や友だちとの会話を楽しむ。</li> <li>自分の思いを伝えようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々なことに挑戦し、失敗も繰り返す中で、考えたり、工夫したりしながらやってみようとする。</li> <li>友だちと遊ぶ中で仲間意識が芽生え、役割を分担したり力を合わせたりして進めていく。</li> </ul> <p>【伝え合う力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友だちに思いを伝えたり、思いを聞いたりする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活の中で使う言葉の意味が分かり、取り入れながら考えたことや感じたことを相手に話す。</li> <li>友だちとやり取りを十分にし、思いを伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>難しいことでも、最後まであきらめずにやり遂げようとする。</li> <li>それぞれの良さを認め合い、協力しながら遊びを進めていく喜びを味わう。</li> </ul> <p>【伝え合う力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>互いに思いを出し合いながら、伝え合う喜びを感じる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで共通の話題について話し合い、自分の考えを相手に分かるように話す。</li> <li>興味を持って相手の話を聞き、友だちに伝え合うことを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの経験を生かしながら、自分のできることは自分でやろうとする。</li> <li>新しい人間関係の中で、自分の思いや考えを持ち、友だちと活動する楽しさを味わう。</li> </ul> <p>【伝え合う力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな友だち関係の中で自分の思いや考えを言ったり聞いたりする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動の中で、できごとや思ったこと、考えたことなどを言葉で伝える。</li> <li>話の聞き方や話し方を知り、自分の思いや考えを伝えようとする。</li> </ul> <p>【三雲小学びのスタンダード】 「話し方・聞き方名人」「声のものさし」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分なりに考えたり試行錯誤したりしながら、意欲的に取り組む。</li> <li>目的に向かって、自分の力を発揮しながら友だちと協力して活動する。</li> </ul> <p>【伝え合う力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと互いの思いや考えを伝え合ったり認め合ったりする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと考えたことや困ったことなどを言葉で伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活や学習での課題を自分のこととして受け止めて、粘り強く取り組む。</li> <li>友だちと意見を交わしながら新しい考えを生み出したり工夫したりしながら取り組む。</li> </ul> <p>【伝え合う力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと互いの気持ちや状況を伝え合ったり認め合ったりする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと考えたことや困ったことなどを言葉で伝え合いながら、活動を広げたり深めたりする。</li> </ul>					
	大切にしたいこと（環境・単元の工夫）	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの欲求を満たし安心して過ごせるようにする。</li> <li>〇言いたいことを言い合えるサークルタイムを設ける。</li> <li>〇ふれあい遊びを通して心も体もほぐす。</li> </ul> <p>★心地よく過ごせる場所をつくる。 その子なりの思いの出し方を受け止める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりが安心して自分の思いを出せるようにする。</li> <li>〇少人数で話すなど、思いを出しやすい機会をつくる。</li> <li>〇子ども同士の葛藤の場面では、すぐに解決せず、互いに気持ちなどを伝えられるように関わる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの気持ちや考えを受容し、自己発揮して活動できるようにする。</li> <li>〇子どもたちの思いやアイデアを遊びに取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもを取り巻く環境に配慮しながら、一人ひとりが安心して、学校生活がスタートできるようにする。</li> <li>〇「なかよしタイム」を設け、園での遊びを取り入れてゆったりとスタートできる場を設ける。</li> </ul> <p>★お互いを大切に作る学級づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの思いや困り感に寄り添い、子ども同士がお互いを認め、受け入れられるようにする。</li> <li>〇ペアやグループ活動を取り入れ、子ども同士が関われるような場を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりがこれまでの活動に自信を持ち、自分なりにステップアップできるようにする。</li> <li>〇1年間を振り返り、できるようになったことをお互いに認め合える時間を設ける。</li> </ul>					
キーワード	「安心して自分が出せる環境」			「互いを認め、受け入れる仲間」			「一人ひとりを大切にできる関わり」					
「じぶんだいすき」ともだちだいすき												
主な教育課程・予想される活動	<p>一年間を通して</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p><b>戸外あそび</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鬼ごっこ（けいどろ、色鬼、かわり鬼など）・運動あそび</li> <li>固定遊具（雲梯、鉄棒、滑り台、ジャングルジム、ブランコ、登り棒）</li> <li>ボール遊び（ドッジボール、サッカー）</li> <li>縄跳び、竹馬、フラフープ</li> <li>ごっこあそび・虫探し</li> <li>砂あそび・水あそび・泡あそび・泥あそび・色水あそび・感触あそび</li> <li>雪あそび・氷あそび・凧あげ</li> </ul> </div> <div style="width: 30%;"> <p><b>室内あそび</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ごっこ遊び（ままごと・お店屋さん、郵便ごっこ）</li> <li>机あそび（カルタ・すごろく・カードゲームなど）</li> <li>あやとり、刺玉、こま</li> <li>積み木・ビー玉転がし・塗り絵・お絵描き</li> </ul> </div> <div style="width: 30%;"> <p><b>生活</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶をする</li> <li>掃除をする（雑巾、ほうき）</li> <li>朝の会（一日のスケジュール）</li> <li>帰りの会（ふり返し）</li> <li>あやとり、刺玉、こま</li> <li>正しい食事マナー、箸の持ち方</li> <li>身の回りのことを自分でする</li> <li>当番活動</li> </ul> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 30%;"> <p><b>飼育・栽培</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>野菜や花を育てる（アサガオ・夏野菜・サツマイモ）</li> <li>小動物や虫を育てる</li> <li>クッキング・お茶パーティ</li> </ul> </div> <div style="width: 30%;"> <p><b>さんぽ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>季節を感じる</li> <li>交通ルールを知る</li> <li>学校へ行く</li> <li>地域の人と関わる</li> <li>自然物を見つける。</li> </ul> </div> <div style="width: 30%;"> <p><b>歌・楽器</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌をうたう</li> <li>楽器あそび</li> <li>合奏</li> </ul> </div> <div style="width: 30%;"> <p><b>制作あそび</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>はさみ、のりを使う</li> <li>絵具あそび、お絵描き</li> <li>空き箱制作</li> <li>粘土あそび</li> <li>グループ制作（作品展）</li> </ul> </div> <div style="width: 30%;"> <p><b>行事</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動会</li> <li>5・5交流</li> <li>発表会</li> <li>卒園式</li> <li>避難訓練</li> <li>防犯訓練</li> <li>身体計測</li> <li>マツソウくん</li> <li>お話し会</li> <li>元気でね、元気だったね集会</li> </ul> </div> </div>			<p>国語・ききたいなともだちはなし・すきなものなになし・としょつへいこう・ぶんをつくらう</p> <p>算数・なかよし・10までのかず・いくつといくつ</p> <p>国語・ききたいなともだちはなし・てがみでしらせよう・ともだちのことしらせよう・しらせたいなみせたいな</p> <p>算数・たしざん・ひきざん・ながさくらべ・ひろさくらべ・かさくらべ</p> <p>国語・ききたいなともだちはなし・おもいだしてかこう</p> <p>算数・おおきなかず・なんじんぶん</p>			<p>いくぞ！がっこうたんけんたい</p> <p>げんきにそだてわたしのはな</p> <p>あぎとなかよし</p> <p>いきものだいすき</p> <p>もうすぐ2ねんせい</p> <p>なつとなかよし</p> <p>ひろがれえがお</p> <p>ふゆとなかよし</p> <p>体育・たのしくあそぼう・ならびっこ</p> <p>体育・持久走・ボールゲーム</p> <p>体育・たのしくあそぼう・ゲームあそび</p> <p>音楽・うたっておどってなかよくなるう</p> <p>音楽・どれみとなかよくなるう</p> <p>音楽・みんなであわせたのしもう</p> <p>図工・かきたいものなになし</p> <p>図工・はこでつくったよ</p> <p>図工・よきよきとびだせ</p> <p>特別活動・どうぞよろしく・そうじをしよう・小学校のいちにち・たのしいきゅうしよく</p> <p>特別活動・みんななかよく・友だちのことをもっとしろう</p> <p>特別活動・6年生ありがとう・もうすぐ2年生</p> <p>道徳・たのしいがっこう・ありがとう・あとかたづけ</p> <p>道徳・どんなあいさつをしますか・おふろばそうじ</p> <p>道徳・あなたってどんなひと</p>					
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちがわくわくしたこと、やってみたことに寄り添って遊びを進めていったことで、自分の思いを表現しながら遊ぶ楽しさを感じられるようになってきた。それをもとに、友だちの考えも聞きながら遊ぶ楽しさも感じられるような場面も作っていききたい。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>今までの経験から自分たちで遊びを作り出すようになってきた。その過程の中でサークルタイムを取り入れ、自分の思いを伝えたり、友だちの考えを聞いたりする場面ももてた。友だちと伝え合いながら遊ぶ中で、それぞれの良さにも気付けるようにしたい。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>スタートカリキュラムの「なかよしタイム」や「わくわくタイム」を充実させ、子どもたち一人ひとりに丁寧に寄り添うことで、スムーズに小学校生活をスタートさせることができた。生活科と他の教科との統合的学習については、実態に合わせて検討が必要である。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>生活科「あぎとなかよし」では、見つけた秋の素材を使っておもちゃやお店を作り、パーティーを開いて幼稚園の5歳児を招待する中で、友だちと協力して、試行錯誤したり友だちと考えたことや困ったことなどを言葉で伝え合ったりすることができた。</li> </ul>		

【別添資料②】

三雲小学校 スタートカリキュラム 週案

週目標	【どきどき わくわく 三雲小学校！】 1年生になったことを喜び、安心して過ごそう。									
月 日	4月11日(月)	4月12日(火)	4月13日(水)	4月14日(木)	4月15日(金)					
行事等	1年③まで	1年③まで	1年③まで	1年給食開始④まで	1年通常授業開始 避難訓練					
登校後	登校後、かばんは机の上に置いておく。 ・トイレ、手洗い ・読み聞かせ ・手遊び									
朝の会						①手洗い・うがい ②荷物のかたづけ ③提出物を出す ④好きな遊びをして過ごす。 ⑤トイレ・手洗い				
朝学習										
1校時	生 生 生 <わくわくタイム> 「がっこうのはてなを かいけつしよう」 ・朝のあいさつ ・荷物の片づけ方 ・引き出し、ロッカー ・荷物かけの使い方 ・健康観察	国 学 学 <わくわくタイム> 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日の予定 「がっこうのはてなを かいけつしよう」 ・靴箱、傘立ての使い方 ・小学校の一日	生 国 国 <なかよしタイム> 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日の予定 「なかよくなろう」② ・今日のテーマ 「すきなたべもの」を 答えよう。	国 国 国 <なかよしタイム> 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日の予定 「たいどうぶくにきが えよう」 ・体操服の着替え方と片 づけ方	生 生 生 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日の予定 「なかよくなろう」③ 「じゃんけんれっしゃ」					
2校時	学 学 学 <なかよしタイム> 「なかよくなろう」 ・自己紹介をしよう ・今日のテーマ「すきなあ そび」を答えよう。 ・写真を撮ろう ・みんなで遊ぼう	国 国 国 <なかよしタイム> 「なかよくなろう」① ・自己紹介をしよう ・今日のテーマ「すきなあ そび」を答えよう。 ・写真を撮ろう ・みんなで遊ぼう	生 生 生 <わくわくタイム> 「がっこうのはてなを かいけつしよう」 ・こまったときは、どうす るの？ ・保健室、職員室の場所	体 体 体 <くんぐんタイム> 「たのしくあそぼ う」 ・ならびっこ遊び ・着がえよう	学 学 学 <くんぐんタイム> 「みんなではなそう」 ・火事になったらどうす るの？					
3校時	学 学 学 <なかよしタイム> 「なかよくなろう」 ・安全な帰り方 ・学年下校のしかた ・帰りの用意のしかた	国 国 学 <くんぐんタイム> 「せんあそびをしよ う」 ・よい姿勢 ・えんぴつの持ち方 帰りの用意	国 国 学 <くんぐんタイム> 「じぶんのなま えをかこう」 ・よい姿勢 ・初めての名前 帰りの用意	生 生 生 <わくわくタイム> 「がっこうのはてなを かいけつしよう」 ・給食はどこからくるの？ ・給食室の先生	図 図 図 <くんぐんタイム> 「じぶんのかお をかこう」					
4校時				学 学 学 <なかよしタイム> 「たのしいきゅう しょく」 ・給食の準備 ・楽しく食べよう	学 学 学 <わくわくタイム> 「がっこうのはてなを かいけつしよう」 ・そうじのしかた① 給食の準備を しよう					
給食	きゅうしょくをたべよう									
昼休み	かたづけをしよう									
掃除	そうじをしよう									
5校時				音 音 学 <くんぐんタイム> 「たのしくた おう」 ・春の歌 ・校歌 帰りの用意						
備考										

## 三雲小学校 スタートカリキュラム 週案

週目標	【自分でできること いっぱいあるよ】 友だちや先生となかよくなって、学校のルールを知ったりきまりを考えたりしよう。																			
月 日	4月18日(月)		4月19日(火)		4月20日(水)		4月21日(木)		4月22日(金)											
行事等	身体測定 測定聴力(1年)				検尿容器配布		検尿 避難訓練		検尿 家庭訪問2次案内											
登校後	※学級や子どもの実態に合わせて柔軟に行う。																			
朝の会											①手洗い・うがい ②荷物のかたづけ ③提出物を出す ④好きな遊びをして過ごす。 ⑤トイレ・手洗い									
朝学習																				
1校時	学	<なかよしタイム> 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日予定	学	<なかよしタイム> 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日予定	国	<なかよしタイム> 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日予定 「なかよくなろう」④ 今日のテーマ 「すきなあそび」を 答えよう。	学	<なかよしタイム> 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日予定 「きがえよう」	国	<なかよしタイム> 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日予定 「なかよくなろう」 ⑤ 今日のテーマ 「すきなどうぶつ」を 答えよう。										
2校時	行	じんたいぞくてい	国	<くんぐんタイム>	算	<くんぐんタイム>	体	<くんぐんタイム> 「たのしくあそぼう」	算	<くんぐんタイム>										
	行	ちようりよくけんさ	国	ひらがなのれんしゅう 「く」	算	<くんぐんタイム> 「くらべよう」	体	・ならびっこ遊び ・おに遊び	算	「10までのかず」										
	行		国		算		行	ひなんくんれん	算											
3校時	国	<くんぐんタイム>	生	<わくわくタイム> 「いくぞ!がっこうたんけんたい」 ・みんなで探検しよう。 ・見つけたことを話そう。	生	<わくわくタイム> 「がっこうのはてなをみつけよう」 ・学校で行ってみたいところは? ・約束を決めよう。 ・あいさつのしかた	生	<わくわくタイム> 「がっこうのはてなをみつけよう」 ・気になる場所に行ってみよう。	国	<くんぐんタイム>										
	国	せんをかこう	生		生		生		国	ひらがなのれんしゅう 「し」										
	国		国		国		生		国											
4校時	学	<わくわくタイム> 「がっこうのはてなをみつけよう」 ・何があるかな? ・誰がいるかな?	算	<くんぐんタイム> なかまあつめ	国	<くんぐんタイム> ひらがなのれんしゅう 「へ」	図	・見つけたことを絵に描こう。	学	<わくわくタイム> 「がっこうのはてなをみつけよう」 ・図書室に行ってみよう										
	学	給食の準備をしよう	学	給食の準備をしよう	学	給食の準備をしよう	学	給食の準備をしよう	学	給食の準備をしよう										
	学		学		学		学		学											
給食	きゅうしょくをたべよう		きゅうしょくをたべよう		きゅうしょくをたべよう		きゅうしょくをたべよう		きゅうしょくをたべよう											
昼休み	かたづけをしよう		かたづけをしよう		かたづけをしよう		かたづけをしよう		かたづけをしよう											
掃除	そうじをしよう		そうじをしよう		そうじをしよう		そうじをしよう		そうじをしよう											
5校時	生	<わくわくタイム> 「いくぞ!がっこうたんけんたい」 ・みんなで探検しよう。 ・見つけたことを話そう。	道	<くんぐんタイム> 「たのしいがっこう」	国	<くんぐんタイム> ひらがなのれんしゅう 「し」	音	<くんぐんタイム> 「たのしくたあう」 ・春の歌 ・校歌	学	<なかよしタイム>										
	生		道		国		音		学	「ひとりとひとやくをきめよう」										
	国		道		国		音		学											
備考																				

## 三雲小学校 スタートカリキュラム 週案

週目標	【小学校って おもしろいな！たのしいな！】							
月 日	4月25日(月)	4月26日(火)	4月27日(水)	4月28日(木)	4月29日(金)			
行事等			学習参観②④ PTA総会③	心電図検査				
登校後	①朝の準備 ②好きな遊び ③手洗い・トイレ							
朝の会	①手遊び・歌・読み聞かせ							
朝学習	②健康観察							
	③一日の予定							
1校時	道	<くんぐんタイム> 「うまれたてのいのち」	生	<わくわくタイム> 「がっこうのはてなをみつけよう」 ・春を見つけよう。 ・見つけたことを話そう。	学	<なかよしタイム> 「ひとりひとりをきめよう」	国	<くんぐんタイム> あさのおひさま
	道		生		学		国	
	道		生		学		国	
2校時	国	<くんぐんタイム> ひらがなのれんしゅう「へ」	国	<くんぐんタイム> ひらがなのれんしゅう「の」	図	<くんぐんタイム> ひもひもねんど	行	しんでんずけんさ
	国		国		図		行	
	国		国		図		行	
3校時	体	<くんぐんタイム> 「たのしくあそぼう」 ・ならびっこ遊び ・おに遊び	国	<くんぐんタイム> うたにあわせてあいうえお	算	<くんぐんタイム> 「10までのかず」	国	<くんぐんタイム> ひらがなのれんしゅう「ん」
	体		国		算		国	
	体		国		算		国	
4校時	生	<わくわくタイム> 「がっこうのはてなをみつけよう」 ・みんなで探検しよう。 ・見つけたことをはなそう。	算	<くんぐんタイム> 「10までのかず」	国	<くんぐんタイム> ひらがなのれんしゅう「ろ」	算	<くんぐんタイム> 「10までのかず」
	生		算		国		算	
	生		算		国		算	
給食	きゅうしよくをたべよう		きゅうしよくをたべよう		きゅうしよくをたべよう		きゅうしよくをたべよう	
昼休み	かたづけをしよう		かたづけをしよう		かたづけをしよう		かたづけをしよう	
掃除	そうじをしよう		そうじをしよう		そうじをしよう		そうじをしよう	
5校時	音	<くんぐんタイム> 「みんなであそぼう」 ・春の歌 ・校歌	学	<なかよしタイム> 「みんなであそぼう」	生	<わくわくタイム> 「いくぞ！がっこうたんけんたい」 ・みんなで探検しよう。 ・見つけたことを話そう。	国	<くんぐんタイム> としよつへいこう
	音		学		生		国	
	音		学		生		国	
備考								

昭和の日

4 月

月

5 月

月

6 月

月

7 月

月

## いくぞ! がっこうたんけんたい ②②+他教科⑩

### がっこうのはてなを かいつけしよう⑥

- ・あさのあいさつ
- ・にもつのかたづけかた (つくえ、ひきだし、ロッカー)
- ・けんこうかんさつ
- ・トイレのつかいかた
- ・くつばこ、かさたてのつかいかた
- ・しょうがっこうのいちにち
- ・こまったときは、どうするの?
- ・きゅうしゅくはどこからくるの?
- ・そうじをしよう。

### がっこうのはてなを みつけよう⑨

- ・なにがあるかな? だれがいるかな?①
- ・みんなで がっこうをたんけんしよう。③
- ・どんなものがあったかな。①
- ・きになるばしょに いてみよう。(班ごとに)⑤
- ・こんなもの みつけたよ。②
- ・がっこうのひととはなしてみよう。② (・サインをもらおう。)
- ・こうていを たんけんしよう。①
- ・はるを みつけよう。①
- ・がっこうのまわりをあるいてみよう。①
- ・ちかくのこうえんに あそびにいこう。②

### がっこうのはてなを しょうかいしよう⑦

- ・たんけんマップをつくってみよう。②
- ・おきにいりのばしょをしょうかいしよう。④
- ・がっこうたんけんをして、よかったことをはなしあおう。①

みんなでちづをつくったよ!



- \*まどめ方は、子どもと相談する。(これまでの経験を生かす)
- \*絵に描いて表す。(図工科との合科)
- \*グループで紹介し合う。(国語科との合科) 「伝え合う力」
- \*発表する。(国語科との合科)

\*学活との合科で行う。



- \*探検に行くときには、めあてを持たせるようにする。「幼稚園や保育園にはなかったものを見つけよう」「2 ずつあるものを見つけよう」(算数科との合科)
- \*探検後のふりかえりを大切にして、次の探検に生かせるようにする。
- \*「探検するときの約束」を話し合って決める。(道徳科との合科)

### げんきにそだて わたしのはな⑤

- ・どんなたねかな?
- ・たねをうえよう。
- ・せわをしよう。
- ・じゅくりかんさつしよう。

おおきくなあれ!

おきにいりのばしょのしゃしんをとったよ。しゃしんをみながら、ぶんをかこう。

### なつとなかよし⑥

- ・なつはどんなきせつかな?
- ・なつのこうていでてみよう。
- ・なつとあそぼう。
- ・みつけたなつをつたえよう。

「なつといえば・・・」をみつけたよ!



- \*五感を働かせる。
- \*大きさや長さを比べる方法を子どもと一緒に考える。(これまでの経験を生かす)

つぎは、どこにたんけんに行く?



これが、イケメンのがいこつさん・・・

## 研究主題: 目指す子どもの姿に迫る主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保育・授業の在り方 ～「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた幼保小連携を通して～

### 1 主題設定の理由

彦根市は非認知能力を系統的に育むために、幼小接続を教育施策の重点に掲げ、接続期カリキュラムの作成を進めている。一方、取組が一部の職員のみにとどまっていることから、校区全体で子どもの学びや育ちをつなぐという意識の向上も求められている。そこで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、一人ひとりの多様性に配慮した上で、全ての子どもたちに学びや生活の基盤を育むための具体的な架け橋期のカリキュラムの工夫や教育の方法について、施設類型の違いを越えた幼保小接続を推進し、架け橋期における保育・教育の質的向上について研究を進めていきたい。

### 2 幼児教育と小学校教育をつなぐ取組や架け橋期カリキュラムに関する取組など

#### (1) 実施した研修会等

実施日	対象	内容等
4月 7日	小学校管理職、加配教員 教務（研究主任）	・加配教員の幼稚園での勤務に向けた打合せ ・本事業の今年度の取組についての打合せ
4月 12日	カリキュラム開発会議構成員	第1回幼小接続連絡協議会・日程決定 ・メールアドレス交換
4月 25日	幼保小管理職・担当者	「幼保小の架け橋プログラム事業」に係る 連絡協議会
5月 11日 ～31日	幼保小職員（管理職、5歳児担 任、1年生担任）	園（5歳児）と小学校（1年生）の相互参観
6月 27日	カリキュラム開発会議構成員	カリキュラム作成会議1 ・県教委事業説明 ・各校園の取組 ・ゴールの共有 ・今年度の計画
7月 12日	カリキュラム開発会議構成員	第1回幼小接続連絡協議会
7月 28日	カリキュラム開発会議構成員	カリキュラム作成会議2 ・連絡協議概要説明 ・期待する子ども像協議
7月末	小学校全職員	1日保育体験
8月 3日	小学校全職員	7月末の保育体験からの学びまとめ
8月 5日	カリキュラム開発会議構成員	カリキュラム開発会議1 ・各校園の活動計画を交流 ・今後の研究に向けて
8月 31日	幼保小管理職・担当者	今後の研究に向けての打合せ ・期待する子ども像、10の姿、大切にしたい ことの確認
10月 4日 10月 27日 11月 15日 11月 22日	カリキュラム開発会議構成員	5歳児の公開保育・1年生の公開授業 ・大学教授・指導主事からの指導講話
11月 15日	カリキュラム開発会議構成員	カリキュラム開発会議2
1月 24日	・カリキュラム開発会議構成員 ・県内校園等から参加希望者	公開研修会 ・5歳児の公開保育・1年生の公開授業 ・大学教授・指導主事からの指導講話
2月 24日	カリキュラム開発会議構成員	カリキュラム開発会議3

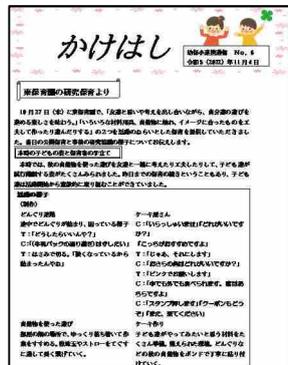
## (2)加配教員の取組

### ◆保育への参画について

各園に週 15 時間勤務し、5 歳児のクラスを中心に保育に参画した。実際に子どもの活動の支援や保育準備等をする中で、子どもの学びの姿や先生の関わりについて見たり、話を聞いたりした。幼稚園、保育園での取組で、小学校の授業のヒントになることや気付いたことを 1 年生担任に伝えて、小学校でも取り入れていけるように進めた。

### ◆保育への連携通信「かけはし」の作成と配付

小学校に入るまでの子どもたちがどのような学びをしているのか、また、小学校の教科や生活につながるころ、園でしていることで小学校でもできる工夫などについて連携通信「かけはし」で発信した。また、幼稚園の園内研究に参加し、各園が目指している保育の在り方について学んだことや、各校園の実践保育・授業の様子について、大切にしたい「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」を踏まえて整理し、意識しながら小学校の指導につなげていけるようにした。



### ◆架け橋期カリキュラムの作成について【別添資料①】

架け橋期カリキュラムについては、各園の 5 歳児クラス担任、園と小学校のコーディネーター 2 名、加配教員が中心になり作成を進めた。本市の研究指定校園の子どもたちは、教師が指示したことには素直で真面目に取り組むことができることや友だちと一緒にやりたい遊びを見つけ、目的をもって遊びを進めることができるというよさがある。反面、思いを上手く伝えられないことや指示待ちで失敗を恐れがちであり、積極的に考えを話すことについて、苦手な子が多いという弱みがあることから、期待する子どもの姿を「『心が動く、心をほぐす』～答えがないことでも、自ら考え、しなやかな心もち、失敗を恐れず行動する～」とし、重点とする「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」を「自立心」「思考力の芽生え」の 2 点に絞り、各校園それぞれの良さを生かしながら作成を進めた。作成したカリキュラムを今後、実施・検証・見直すことで、よりよいプランの作成に取り組んでいきたい。



【カリキュラム作成に向けた話合いのまとめ】

## 3 実践事例

### (1) 幼児教育と小学校教育の相互理解

#### ◆5月の相互参観

6 月のカリキュラム開発会議までに、「各校園の子どもたちの様子や保育者の様子について少しは知っておいた方がよいのではないか」という声上がり、5 月に校園間の相互参観を行った。これまで小学校の教員は「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」を踏まえた指導が十分にできていなかったため、それを理解するために参観時に「10 の姿」を意識しながら参観できるようなシートを持参し、観察・記録をした。参観の際、園で 1 つのテーブルを囲み、3、4 人で活動している子どもたちの姿から、友だちと助け合いながら取り組む良さを感じた小学校の担任は、その形態をすぐに図画工作科や生活科の時間に取り入れた。友だち同士、気軽に相談し合うことができ、集中が途切れがちな 5 時間目でも最後まで粘り強く取り組むことができた。また、園同士、子どもたちや保育の様子について参観する中で、それぞれの方針や願いの違いによって保育の特色やよさがあることを、子どもの姿を通して実感することができた。

### (2) 研究テーマに迫る各校園の実践

#### ◆城東小学校

夏の校内研修で「園の保育における子どもや保育者の姿などから小学校における授業改善の視点を探る」ことを目的とし、全職員で保育を参観し、参観した園ごとのグループで子どもの様子やそれを支えた保育者の関わり、環境構成等について全体で交流した。子どもたちへの指示が最小限であることなど、小学校にも取り入れたい要素が数多くあることに気付き、2 学期以降の授業の改善につなげた。生活科の学習では「もっと楽しく遊べるように、おもちゃや飾りの作り方や遊び方を工夫することができる」ことをねらいとし、どんぐりごまやまつぼっくりなどを使い、こまやマラカス、ゲームなどを作った。保育参観で学んだ場の設定を取り入れたり、見通しをもって十分に活動ができるような手立てや時間の配分を考えたり

したことで「もっと～したい」という思いをもち、活動に向かうことができた。子どもたちは、自分たちでめあてを立てて取り組み、振り返りの時間には次への見通しと意欲をもつことができた。

学級活動では、「秋祭りの目的を考えながら、学級みんなで楽しいお祭りにするための名前を考えることができるようにする」というねらいで学級会をした。幼稚園、保育園の年長児が「お祭りに来たいな」と思えるようなお祭りの名前を考える活動を通して、友だちの意見のいいところに気付くことができた。しかし、意見を合体したり譲り合ったりしながらまとめていくことには、難しさが感じられた。

#### ◆聖ヨゼフこども園

運動会に向けて、「友だちと一緒にイメージを体で表現する楽しさをあじわう」をねらいとし、組体操の技を友だちと意見を出し合いながら考えた。より良いものを作り出すために、子どもならではの発想が生まれ、表現につながった。先生が子どもたちの「もっとこうしたい」という声をつぶさに拾いながら、子どもとともに動作化し、技を完成させることができた。



【自分たちで考えた技】

#### ◆東保育園

「友だちと思いや考えを出し合いながら、自分たちの遊びを進める楽しさを味わう」「いろいろな材料用具、自然物に触れ、イメージに合ったものを工夫して作ったり遊んだりする」の2つを活動のねらいとし、どんぐり迷路やケーキ屋さんなど、秋の自然物を使った遊びを友だちと一緒に考えたり工夫したりした。活動の終わりに振り返りの時間を設け、他の友だちの姿を知ったり、次の活動への期待や見通しにつながったりするような言葉を引き出すことができた。



【振り返りの時間】

#### ◆彦根幼稚園

「友だちと一緒におみせやさんごっこを楽しもう」「自然物やいろいろな材料を使いながら遊びを工夫する」をねらいとし、自分たちが作って楽しんできたお店屋さんや4歳児の子どもたちを招待した。楽しんでもらえるよう、本物そっくりなドーナツやジュース作り、お客さんへの声のかけ方の工夫など、これまでの生活経験を存分に生かした活動となった。困ったことがあったときに、どうしたいと思っているのか、子どもの思いを汲み取ったり、引き出したりすることで子どもが自ら考え、それを言語化して伝える姿を導くことができた。



【おみせやさんごっこ】

### 4 研究の成果と課題

#### ◆成果

校園間の参観や指導案検討、各会議を重ねていく中で、それぞれの校園の実態や考え方、取り組み方の特徴を知り、共通の取組の方法を設定できたことが成果の1つとして挙げられる。それぞれの校園がテーマの実現に向けて、保育や授業の工夫をしたことで「自立心」「思考力の芽生え」につながる子どもの姿が見られ、カリキュラムや実践記録にその足跡を残すことができた。

#### ◆課題

今後、作成した架け橋期カリキュラムを実施、検証、見直すことで、よりよいプランの作成を進めていく。また、各校園の実態に合わせた取組とその共有を進めていく。保育・授業の質向上を目指し、同じ方向を向きながら各校園にあった持続可能な一歩を考えていく必要がある。さらに、これらを実現するための研修を充実していき、教師の学びを充実させ、保育・授業の改善につなげていくことが必要である。

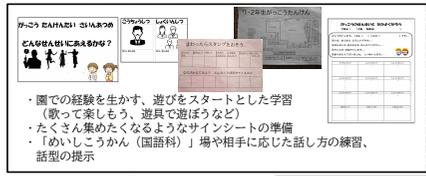
### 5 今後に向けて

研究初年度である今年度は、1小学校と4園が、互いに知ること、分かり合うことからスタートした。施設類型の違い越えた連携・接続には、まだまだ課題がある。来年度はこれらの点についての取組をさらに進めていきたい。取組1年目を終え、架け橋プログラム推進の原動力の1つは、校種を越えた教員同士のつながりであると実感している。次年度はこれまでよりもっと強くなったつながりを原動力として、取組を進めていきたい。

#### 保育・授業改善

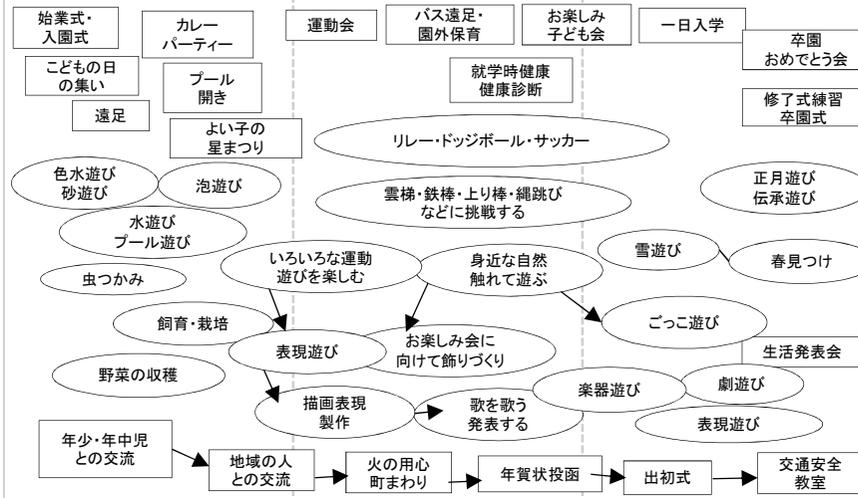
- ・園での経験を聞き、活動に生かす
- ・発想や活動が広がる『もの』の準備
- ・使いたいものを使いやすく
- ・活動に十分ひたれる時間
- ・「したい」を引き出し活動につなげる
- ・友だちと話がしやすい場
- ・考えることを促す関わり
- ・次の活動につなげる振り返り

		5 歳児			第 1 学年		
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像		心が動く、心をほぐす ～答えがないことでも、自ら考え、しなやかな心もち、失敗を恐れず行動する～					
幼児期の終わりに育ってほしい姿	自立心 やってみたい経験を通して、うまくできなくて困った経験を通して、もっとこうしたいという思いが強くなっていく。 思考力の芽生え 自分と友だちの思いや考えの違いに気付きながら色々な遊びや活動を楽しむ	考えたり工夫したり、失敗したりを繰り返しながら、自分なりに最後までやってみようとする。 お互いの思いや考えを伝えたり聞いたりしながら、もっと楽しくしようと工夫するようになる	できた満足感や達成感から更に積極的に自分の考えを出し、自信をもって諦めずに取り組むことができるようになる。	グループやクラスで色々な考えを出し合い違いを受け入れて新しい考えを生み出そうとする	自分でできそうなことを見つけてためたり、やり直したりしながら、新しい生活に慣れる。	経験したことをもとに見通しをもち、手ごたえを感じながら、できることを積み上げていく。	経験に基づいた見通しをたてて取り組み、達成感、満足感を味わい、自信を深める。
大切にしたいこと	環境 子どもが手に取り、自らやってみたい、もっとこうしたいと思えるような場の工夫 先生の関わり 好きな遊びに夢中になれる時間や場を充実させるような関わり キーワード やってみたい、もっとやりたい	自分で見て触れて感動できる豊かな体験の積み重ね 共感的な受け止めと関わり	友だち同士の関わり (異年齢交流を含む) が活性化する場合づくり 個の思いを認め、つなげる	期待感いっぱいの学びの環境 入学までの体験を把握し、触れなくなる、すぐ試したくなる材料・用具の配置	広がる つながる 学びの環境 広がりつながら生む 材料・用具の配置と教師の声掛け	経験・既習したことを試しながら深まる自信・意欲 グループやクラスで色々な考えを出し合い違いを受け入れて新しい考えを生み出そうとする	できたよ！もっとできるよ！
主な教育課程・予想される活動		<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 33%;"> <p>うたってなよし (音楽科) ・園で親しんだ曲</p> <p>いっしょにあそぼう (体育科) ・運動場・固定遊具</p> <p>いっしょに遊ぶ (言語科) ・学校たんけん ・友だち、教職員との交流</p> <p>おはなまきこう (国語科) たのしいがっこう (道徳科)</p> <p>どうぞよろしく (英語科) ・名刺交換書・挨拶をして名刺を交換する</p> <p>きれいにさいてね ・アサガオの栽培 観察</p> <p>おおきくなった (国語科) ・アサガオを観察し、大きくなったことを伝える文を書く。</p> <p>なつがやってきた ・夏の草花や虫探し (校庭→公園) ・夏の遊び (水遊び・砂遊び) ・活動して楽しかったことを伝える絵や文章をかく。</p> <p>いろいろあそび (図画工作科)</p> </div> <div style="width: 33%;"> <p>しらせたいな見せたいな (国語科) ・学校や公園で見つけたものを家の人に知らせる文を書く。</p> <p>できた！もっどできそう！もっどやりたい！</p> <p>いきものとなよし ・秋の虫探し・虫の飼育 ◎たのしいあき いっぱい ・秋さがし (校庭→公園→AP) ◎あきわたのしもう ・「秋の宝物」を使ったおもちゃ作り (園での経験・本→AP) ・作ったもので遊ぶ (学年→学年→異年齢)</p> <p>ごちそうパーティーはじめよう (図画工作科)</p> </div> <div style="width: 33%;"> <p>協力してやろう ◎ふゆをたのしもう ・冬さがし (校庭→公園) ・冬の遊び (雪や氷) ◎そとであそぼう ・風をつかっただ遊び (かざぐるま、たこめり)</p> <p>できたよ！できるよ！できたよ！</p> <p>◎もうすぐ2年生 ・遊び交流会 (2年生からの招待→新1年生を招待) ・1年間の自分の成長を振り返る</p> <p>自信・意欲 いいこといっぱい 一年生 (国語科) ・「1ねんせいのおもいでアルバム」の作成</p> <p>自分たちで考えると楽しいね</p> </div> </div>					
	振り返り		<p>【学級会】教師が司会となって話し合う。 ・話し合いのルールを知る。</p> <p>【学級会】教師が司会となって話し合う。 ・司会グループの経験をする。 ・「あさまつりの名前を決めよう」</p> <p>【学級会】教師が導きながら話し合う。 ・司会グループの経験をする。 ・「あさまつりの名前を決めよう」</p> <p>【学級会】できるだけ子どもが話し合いを進行する。 ・自分たちで話し合って決めるよさを味わう。</p> <p>○4月に、2年生からたねおくりや学校紹介をしてもらい、小学校生活への期待感を膨らますことができた。 ○「なつがやってきた」では、遊び方などで困ったことがあったときは、友だちや先生と相談しながら進めることができた。 ▲園での経験・環境設定などを生かして準備をしたり活動を設定したりすることが不十分だった。 ▲春から夏への移り変わりに気付くための支援が十分でなかった。</p> <p>○生活科では、園での秋遊みやお店さんの経験を生かしながら、グループで友だちと工夫を重ね、毎時間のあそびをもっと活動することができた。 ○学級会「あさまつりの名前を決めよう」では「ねんちようさんがきたとおもうことば」をキーワードに話し合いを進め、出した言葉を合わせて名前を決めることができた。 ▲交流の準備で看板作りや物を増やすことは頑張れたが、園思に話しかけたり、わかりやすく説明することに対する意識が不十分であった。 ▲学級会の話し合い活動では、合意形成に向けて、自分の思いを強く出し過ぎてしまい、友だちの意見のよいところに関心がなく、譲ったり合併したりすることが見られなかった。</p> <p>○生活科の「もうすぐ2年生」の学習では、写真や動画とを動かし、用紙や探検用ウェビングマップを用いしめしめ思い出をたどって、入学した自分と今の自分を比較して、成長を感じることができた。入学した自分と今の自分を比較して、成長を感じることができた。入学した自分と今の自分を比較して、成長を感じることができた。入学した自分と今の自分を比較して、成長を感じることができた。</p> <p>▲生活科では、季節の移り変わりに気付くことができた。入学した自分と今の自分を比較して、成長を感じることができた。入学した自分と今の自分を比較して、成長を感じることができた。入学した自分と今の自分を比較して、成長を感じることができた。</p> <p>▲生活科では、季節の移り変わりに気付くことができた。入学した自分と今の自分を比較して、成長を感じることができた。入学した自分と今の自分を比較して、成長を感じることができた。入学した自分と今の自分を比較して、成長を感じることができた。</p>				

	5 歳児	第 1 学年		
時期	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像	<p>心が動く、心をほぐす ～答えがないことでも、自ら考え、しなやかな心もち、失敗を恐れず行動する～</p>			
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	<p>自立心</p> <p>自分でできそうなことを見つけてためしたり、やり直したりしながら、新しい生活に慣れる。</p>	<p>新しい生活や環境に慣れ、小学校の学習や活動に興味をもつ。</p>	<p>経験したことをもとに見通しをもち、手ごたえを感じながら、できることを積み上げていく。</p>	<p>経験に基づいた見通しをたてて取り組み、達成感、満足感を味わい、自信を深める。</p>
	<p>思考力の芽生え</p>		<p>お互いの考えの違いに気づいたり、よさを感じたりして、ともに学ぶことを楽しむ。</p>	<p>ひとりで考えたり、友だちと考え合ったりして、物事を解決する面白さを味わい続ける。</p>
<p>幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られた子どもの学びの姿</p>	<p>【がっこうだいすき（生活科を中心とした合科的な指導）】</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>園での経験を生かす、遊びをスタートとした学習（歌って楽しもう、遊具で遊ぼうなど）</li> <li>たくさん集めたくなるようなサインシートの準備</li> <li>「めいしごうかん（国語科）」場や相手に応じた話し方の練習、話型の提示</li> </ul> <p>この歌は、園でも歌っていたよ。</p> <p>みんなと歌うと、楽しいね。</p> <p>お花のお世話は、園でもやっていたよ。お水は、あげすぎてもいけないんだよ。</p> <p>知っている！</p> <p>丁寧な言葉でお話するんだね。話し方を練習しよう。</p> <p>いま、お時間よろしいですか？先生の名前を教えてください。</p> <p>やりたい！</p> <p>▲学習した話型をなぞるだけになり、相手の言葉を聞いて答える「やりとり」ができなかった。</p> <p>▲園の支援を生かした環境の設定（道具の数、置き場等）ができなかった。</p> <p>▲園の支援を生かした環境の設定（道具の数、置き場等）ができなかった。</p> <p>水を混ぜてみてもいい？</p> <p>どうすれば、仲良く遊べるかな</p>		<p>【あきをたのしもう（生活科を中心とした合科的な指導）】</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>秋みつけ、園でのお店屋さんの経験を思い出せるような教師の問いかけ、学習の進め方。</li> <li>校外学習で自分のお店に必要な材料を集める時間の確保。木工体験をすることで秋の宝物を使ったおもちゃ作りに興味をもつ。</li> <li>自分のクラスの友だちとおもちゃで遊ぶことから、隣のクラスの友だち、園の人に来てもらいたいという子どもの思いを大切に学習展開。</li> </ul> <p>たくさんの材料！どれを使って作ろうかな。</p> <p>自分でもぐりに穴をあけるよ！</p> <p>できた！もっどできそう！</p> <p>今日はさかなをたくさんつくりたいな、めあてにしよう。</p> <p>2組のお店も楽しいな！</p> <p>幼稚園の人がきてくれてうれしいな。</p> <p>優しく教えてあげよう。</p> <p>1組さん、いらっしゃいませ！</p> <p>広がる つながる</p> <p>もっどやりたい！</p> <p>▲看板作りや物を増やすことは頑張れたが、わかりやすく説明することに対する意識は不十分であった</p> <p>つりざおが少なかったから、もっど増やしたいです。</p> <p>【あきまつりの名前を決めよう（学級活動）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科等間の関連を生かした課題を設定する。</li> </ul> <p>○自分が取り組んでいることがわかるような言葉を考え発表することができた。</p> <p>▲合意形成に向けて、自分の思いを強く出し過ぎてしまい、友だちの意見と譲りあったり合体したりすることが難しい子がいた。</p> <p>年長さんが楽しめる名前がいいな</p>	
	<p>他園・小学校からのコメント</p>	<p>園での経験を尋ねることで、園での経験や活動が安心材料となり、子どもたちが期待をもって新しい学校生活に向かっていることがよく見えた。慣れ親しんだ園での生活が基盤になって次のステージ（小学校）を楽しみにしている様子がよくわかった。</p> <p>・「園でもやっていたよ」という子どもたちの言葉をたくさん拾ってもらい、安心した。朝顔の栽培は4歳児の時に経験しているが、その経験の上に小学校での朝顔栽培の学習が積み重なり、「感じたこと・気づいたこと」の観察記録が文にかけるのだから、つながりの中に、子どもたちの一回りも二回りも成長した姿を見ることができた。</p> <p>・6月の保幼小連絡会でも生活科の学習を見られると、子どもたちの育ちがよくわかるのではないかな。</p>		<p>・じっくり遊ぶ時間の確保、使いやすい環境を整えることが大事である。</p> <p>・園での経験が生かされた学習内容であった。細く切り込みを入れたり、色や形にこだわったりして、園の時より丁寧な作業で、更に工夫が見られた。</p> <p>・それぞれのグループがめあてをもって取り組み、子どもなりに足跡が見られる活動になっていた。</p> <p>・小学校に進学後、すぐの時期に生活科の授業を中心とした子どもの楽しめる活動があることよい。</p> <p>・生活科の時間は園の遊びから繋がっていることがたくさんある。この時間が充実していると他の授業でもスムーズな移行（架け橋期）ができるのではないかな。</p> <p>・学級会で、自分がわからない言葉が出てきたときに質問し、理解しようとしている姿があった。</p> <p>・型にはまった話し方をすることで、余計に緊張してしまう児童もいるのではないかな。</p>

		5 歳児			第 1 学年		
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像		<b>心が動く、心をほぐす</b> ～答えがないことでも、自ら考え、しなやかな心を持ち、失敗を恐れず行動する～					
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	自尊心 思考力の芽生え	やって来てくれたことや、うまくできなくて困った経験を通して、もっとこうしたいという思いが強くなっていく。	考えたり工夫したり、失敗したりを繰り返しながら、自分なりに最後までやってみようとする。	できた満足感や達成感から更に積極的に自分の考えを出し、自信をもって諦めずに取り組むことができるようになる。	自分でできそうなことを見つけてためたり、やり直したりしながら、新しい生活に慣れる。	経験したことをもとに見通しを持ち、手ごたえを感じながら、できることを積み上げていく。	経験に基づいた見通しをたてて取り組み、達成感、満足感を味わい、自信を深める。
大切にしたいこと	環境 先生の関わり キーワード	子どもが手に取り、自らやってみたい、もっとこうしたいと思えるような場の工夫	自分で見て触れて感動できる豊かな体験の積み重ね	友だち同士の関わり（異年齢交流を含む）が活性化する場づくり	期待感いっぱいの学びの環境	広がる つながる 学びの環境	経験・既習したことを試しながら深まる自信・意欲
		好きな遊びに夢中になれる時間や場を充実させるような関わり	共感的な受け止めと関わり	個の思いを認め、つなげる	入学までの体験を把握し、触れたくなる、すぐ試したくなる材料・用具の配置	広がりつながりを生む 材料・用具の配置と教師の声掛け	グループやクラスで色々な考えを出し合い違いを受け入れて新しい考えを生み出そうとする
		やってみたい、もっとやりたい	様々な経験の積み重ね	友だちとつながる、深まる	知っている！ やりたい！	もっと もっと やりたい！	できたよ！もっとできるよ！

主な教育課程・予想される活動



**うたてなかよし (音楽科)**  
・園で親しんだ曲

**いっしょにあそぼう (体育科)**  
・運動場・固定道具

**〇がっこうだいすき**  
・学校たんけん・友達、教職員との交流

**おはなしきこう (国語科)**  
・名刺を書く・挨拶をして名刺を交換する

**たのしいがっこう (道徳科)**

**きれいにさいえね**  
・アサガオの栽培、観察

**おおきくなつた (国語科)**  
・アサガオを観察し、大きくなったことを伝える文を書く。

**なつがやってきた**  
・夏の草花や虫探し(校庭→公園)  
・夏の遊び(水遊び・砂遊び)  
・活動して楽しかったことを伝える絵や文章をかく。

**いろいろな見せたいな (国語科)**  
・学校や公園で見つけたものを家の人に知らせる文を書く。

**〇いきものとなかよし**  
・秋の虫探し・虫の飼育  
・秋さがし(校庭→公園→AP)  
・〇あききたのしもう  
・「秋の宝物」を使ったおもちゃ作り(園での経験・本→AP)  
・作ったもので遊ぶ(学級→学年→異年齢)

**〇ふゆきたのしもう**  
・冬さがし(校庭→公園)  
・冬の遊び(雪や水)  
・〇そとであそぼう  
・風をつかった遊び(かざぐるま、たこあげ)

**〇もうすぐ2年生**  
・2年生からの招待→新1年生を招待)  
・1年間の自分の成長を振り返る

**ごちそうパーティー**  
はじめよう (図画工作科)

**【学級会】教師が司会となって話し合う。**  
話し合いのルールを知る。

**【学級会】教師が司会となって話し合う。**  
話し合いのルールを知る。

**【学級会】教師が司会となって話し合う。**  
話し合いのルールを知る。

**【学級会】教師が司会となって話し合う。**  
話し合いのルールを知る。

振り返り

<p>年長児になったことに喜びを感じ他学年の友だちに優しく接する姿が見られた。戸外に出て、積極的にいろいろな活動に参加しようとする。草花や虫、小動物に関心を示し、色水遊びでは、花の咲いている場所を見つけ色の混ざりを楽しんでいた。</p>	<p>運動会での取り組みや忍者の修行カードに挑戦し諦めずに何度も頑張る大切さを感じたり、少しずつできるようになる喜びや達成感を感じていた。また、お店屋さんごっこを通して、友だちと一緒に相談し、試行錯誤しながら遊びを進めることを楽しんでいた。</p>	<p>・こまな人さんに紐の巻き方やコマの回し方を教えてもらったことで更にこま回しへの意欲が高まった。自分たちで点数を付け、点数板に書き、数の多いところに入れることを競い合いながら、投げ方を何回も工夫する姿があった。 ・すぐろくやカヨムなど数人の友だちと一緒にルールを確認したり教え合ったりしながら取り組んでいた。勝敗を巡るやり取りの中では個々の思いがぶつかる場面もみられたがクラス全体で話し合うなどすると、折り合いをつけていくようになってきた。</p>	<p>〇4月に、2年生からたねおくりや学校紹介をしてもらい、小学校生活への期待感を膨らませることができた。 〇「なつがやってきた」では、遊び方などで困ったことがあったときは、友だちや先生と相談しながら進めることができた。 ▲園での経験・環境設定などを生かして準備をしたり活動を設定したりすることが不十分だった。 ▲春から夏への移り変わりに気付くための支援が十分でなかった。</p>	<p>〇生活科では、園での秋遊びやお店さんの経験を生かしながら、グループで友だちと工夫を重ね、毎時間のあそびを通して活動することができた。 〇学級会「あきまつたの名前を決めよう」では「ねんちようさんがきたいともうごころば」をキーワードに話し合いを進め、出し合った言葉を合わせて名前を決めることができた。 ▲交流の準備で看板作りや物を増やすことは頑張れたが、園児に話しかけたり、わかりやすく説明したりすることに對する意識が不十分であった。 ▲学級会の話し合い活動では、合意形成に向けて、自分の思いを強く出し過ぎてしまい、友だちの意見のよいところに気が付かずに、譲ったり合体したりすることが難しい子がいた。</p>	<p>〇生活科「もうすぐ2年生」の学習では、写真や動画などを活用して、園児の出陣やウェビングラフを明確に思い出させてきた。入学し自分たちで自分の名前を決め、できるよつづつなごっこで遊ぶことが達成感を生み、「思ひかた」にほめて、園児のあそびのよさを伝えてくれた。 〇学級会では、懇話会前準備の工夫として、写真や動画の活用や園児の様子から、懇話会でいえる理由を自分たちで考えることで、ペアやグループで資料作成を話し合い、自分たちで自分自身で話し合い、自分たちの思いを伝え、自分たちの思いを伝え、自分たちの思いを伝えることができた。 ▲生活科では、園児の様子から、懇話会でいえる理由を自分たちで考えることで、ペアやグループで資料作成を話し合い、自分たちで自分自身で話し合い、自分たちの思いを伝え、自分たちの思いを伝えることができた。</p>
--	--	--	--	---	---

		5 歳児			第 1 学年
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7
期待する子ども像	<p>心が動く、心をほぐす ～答えがないことでも、自ら考え、しなやかな心を持ち、失敗を恐れず行動する～</p>				
幼児期の終わりに育ててほしい姿	自立心	やってみてできたことや、うまくできなくて困った経験を通して、もっとこうしたいという思いが強くなっていく。	考えたり工夫したり、失敗したりを繰り返しながら、自分なりに最後までやってみようとする。	できた満足感や達成感から更に積極的に自分の考えを出し、自信をもって諦めずに取り組むことができるようになる。	
	思考力の芽生え	自分と友だちの思いや考えの違いに気づきながら色々な遊びや活動を楽しむ	お互いの思いや考えを伝えたり聞いたりしながら、もっと楽しくしようと工夫するようになる	グループやクラスで色々な考えを出し合い違いを受け入れて新しい考えを生み出そうとする	
幼児期の終わりに育ててほしい姿が見られた		<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めは、削り器を使って石鹸を削り水と混ぜながら泡づくりをしていた。</li> <li>・保育者の作ったクリームを見て「どうやって作るの？」と興味を持っている。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポンプ式の容器から大切に水を入れ、量を調節しながら絞り袋から絞れる固さのクリームを作ろうと考えたり試したりしている。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボウルをさかさまにして固さを確かめている。</li> <li>・初めてクリーム作りをしたときは、自分の想像通りにできずに悔し泣きをする姿があったが、自分なりに石鹸や水の量を調整したり、友だちと一緒に作り絞り袋から絞れるクリームがでた。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・絞り袋にクリームを入れるときには、友だちに持ってもらい協力していた。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上手く作れた嬉しさや自信から「どうしたらいいかな」と悩んでいた友だちに作り方を教えたり、一緒に作ってあげる姿が見られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭からドングリを持ってきた子どもが、包み紙にドングリを包みキャンディーづくりをしたり、段ボールでドングリ坂を作り遊びを楽しんでいた。</li> <li>・廃材や自然物を材料棚に用意しておくことで、ケーキやドーナツを作ったり、自然物や折り紙、リボンを使いアクセサリー作りをしていた。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めは、ジュズダマとテグスでアクセサリー作りをしていた子どもと、リボンや布を使って作っていた子どもがいた。</li> <li>・それぞれでやることを楽しんでいたが、話し合いをしてお互いに一緒にお店をすることになった。</li> <li>・「お店にカーテンを付けたい」「売る時の台を高くしたい」などそれぞれの思いを伝え合いながらお店ができた。</li> <li>・小さい組の友達の背に合わせてしゃがみ接する姿が見られたり、自分のイメージを型位置にしようと試行錯誤しながら友達と一緒に遊ぶ姿が見られるようになった。</li> </ul>  		
	他園・小学校からのコメント		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「どうしてかな…」「うまくいかな…」遊びの中で子どもたちが試行錯誤して行くこと「できた!」「やった!」と達成感を味わうことが大切だと感じた。</li> <li>・「繰り返す」ことで自分が納得でき自信を持つことができる。</li> <li>・水の量を適量に持つていくための試行錯誤が思考力の芽生えに繋がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「もっと～したい」「こうしたら…」と、考えて工夫している姿が見られた。</li> <li>・友だちのアイデアを「いいね!」と認め、想像を膨らましながらお店屋さんを楽しんでいる。</li> <li>・どの子どもも自分のお店に愛着を持ち、「本物らしく」作ろうとしている。</li> </ul>	

		5歳児			第1学年		
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像		心が動く、心をほぐす ～答えがないことでも、自ら考え、しなやかな心もち、失敗を恐れず行動する～					
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	自立心 やって来てできたことや、うまくできなくて困った経験を通して、もっとこうしたいという思いが強くなっていく。 思考力の芽生え 自分と友だちの思いや考えの違いに気付きながら色々な遊びや活動を楽しむ	考えたり工夫したり、失敗したりを繰り返しながら、自分なりに最後までやってみようとする。 お互いの思いや考えを伝えたり聞いたりしながら、もっと楽しくしようと工夫しようとする	できた満足感や達成感から更に積極的に自分の考えを出し、自信をもって諦めずに取り組むことができるようになる。 グループやクラスで色々な考えを出し合い違いを受け入れて新しい考えを生み出そうとする	自分でできそうなことを見つけてためしたり、やり直したりしながら、新しい生活に慣れる。 新しい生活や環境に慣れ、小学校の学習や活動に興味をもつ。	経験したことをもとに見通しをもち、手ごたえを感じながら、できることを積み上げていく。 お互いの考えの違いに気づいたり、よさを感じたりして、ともに学ぶことを楽しむ。	経験に基づいた見通しをたてて取り組み、達成感、満足感を味わい、自信を深める。 ひとりで考えたり、友だちと考え合ったりして、物事を解決する面白さを味わい続ける。	
大切にしたいこと	環境単元 子どもが手に取り、自らやってみよう、もっとこうしたいと思えるような場の工夫 先生の関わり 好きな遊びに夢中になれる時間や場を充実させるような関わり キーワード やってみたい、もっとやりたい	自分で見て触れて感動できる豊かな体験の積み重ね 共感的な受け止めと関わり	友だち同士の関わり (異年齢交流を含む) が活性化する場づくり 個の思いを認め、つなげる	期待感いっぱいの学びの環境 入学までの体験を把握し、触れなくなる、すぐ試したくなる材料・用具の配置	広がる つながる 学びの環境 広がりつながりを生む 材料・用具の配置と教師の声掛け	経験・既習したことを試しながら深まる自信・意欲 グループやクラスで色々な考えを出し合い違いを受け入れて新しい考えを生み出そうとする	
主な教育課程・予想される活動							協力してやろう ○ふゆきたのしもう ・冬さがし(校庭→公園) ・冬の遊び(雪や水) ○そとであそぼう ・風をつかった遊び(かざぐるま、たこあげ)
	振り返り	<p>・天気の良い日は砂場で裸足になってダイナミックに遊んだり、友だちと一緒に遊んだりする場を多くもつことで友だちの姿に刺激され「やってみよう」とする姿も見られ少しずつ遊びの幅が広がってきた。</p> <p>・保育室の環境構成は、子どもたちが自ら遊びを考えたり、作ったりするには不十分であった。限られた場所ではあるが、魅力ある場作りをしていく。</p>					
<p>・午前中の活動内容の見直しを行い、子どもたちが主体的に遊びが進められるように環境を整えるようにした。「やってみよう」と感じられる魅力的な環境作りの大切さを改めて感じた。</p> <p>・保育者も一緒に遊びながら、遊びのヒントを知らせることで「こんな風にしてみたい」と少しずつ友だち同士でアイデアを出し合いながら遊びを進め、継続して遊ぶようになってきた</p>						自信・意欲 いいこといっぱい 一年生(国語科) ・「1ねんせいのおもいでアルバム」の作成	
<p>・クラスみんなで取り組む経験を積み重ねることで苦手なことにも「やってみよう」と、挑戦しようとする姿が見られるようになり、自分なりの目的をもって繰り返し取り組むようになってきた。同じ場で遊ぶ友だちの存在も大きく互いに教え合ったりできた時は「すごいね」と認め合う姿も見られるようになった。</p> <p>・友だちとルールを伝え合いながら遊びを進めていくようになってきたが、個人差もあるため保育者が一緒に遊ぶ中でルールを再度確認していく必要がある。</p>						やりたいたい！ 【学級会】教師が司会となって話し合う。 【話し合いのルールを知る。】	
<p>○4月に、2年生からたねおくりや学校紹介をしてもらい、小学校生活への期待感を膨らますことができた。</p> <p>○「つながってできた」では、遊び方などで困ったことがあったときは、友だちや先生と相談しながら進めることができた。</p> <p>▲園での経験・環境設定などを生かして準備したりの活動を設定したりすることが不十分だった。</p> <p>▲春から夏への移り変わりに気付くための支援が十分でなかった。</p>						広がる つながる 【学級会】教師が司会となって話し合う。 【話し合いのルールを知る。】	
<p>○生活科では、園での秋遊びやお店さんの経験を生かしながら、グループで友だちと工夫を重ね、毎時間のあてをもって活動することができた。</p> <p>○学級会「あきまつり」の名前を決めようでは「ねんころりさんがきたらどうしよう」というキーワードに話し合いを進め、出した言葉を含ませて名前を決めることができた。</p> <p>▲学級会の準備で看板作りや物を増やすことは頑張ったが、園児に話しかけたり、わかりやすい説明することに對する意識が不十分であった。</p> <p>○学級会では、整理整頓するの工夫について、実際の経験や実際の経験を生かしながら、整理できない理由を自分たちで考えることができた。</p> <p>▲学級会では、教室の「せんたくのびん」を見つかる種類を「ひみつ」を見つかるように、自分の身の回りを観察していた。観察の思いと話をし、子どもが自ら観察の大切さを理解し、関心を持てたと感じた。</p>						自分たちで考えると楽しいね 【学級会】できるだけ子どもが話し合いを進行する。自分たちで話し合っ決めて決めるよさを味わう。	

		5 歳児			第 1 学年
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7
期待する子ども像	心が動く、心をほぐす ～答えがないことでも、自ら考え、しなやかな心を持ち、失敗を恐れず行動する～				
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	自立心	やってみてできたことや、うまくできなくて困った経験を通して、もっとこうしたいという思いが強くなっていく。	考えたり工夫したり、失敗したりを繰り返しながら、自分なりに最後までやってみようとする。	できた満足感や達成感から更に積極的に自分の考えを出し、自信をもって諦めずに取り組むことができるようになる。	
	思考力の芽生え	自分と友だちの思いや考えの違いに気付きながら色々な遊びや活動を楽しむ	お互いの思いや考えを伝えたり聞いたりしながら、もっと楽しくしようと工夫するようになる	グループやクラスで色々な考えを出し合い違いを受け入れて新しい考えを生み出そうとする	
	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られた	<p>&lt;どうやったら水が流れるかな？&gt;                      5月下旬、少しずつ気温も高くなり、水の冷たさや触感が心地よい季節になってきた頃、子どもたちは、砂場に穴を掘り、水を入れて「温泉」「プール」を作り、全身で水や砂の感触を味わい楽しむ姿が見られた。次の日は樋を持ち出し、水を流すことを楽しみ始めた。</p>  <p>最初は樋を砂場に置いて水を入れていたが傾斜ないので水が流れない。「水が流れない!」「何で?」と水を勢いよく入れたりしてみたり、いろいろな方法で試してみるが流れない。すると、同じ場に遊んでいた子どもがバケツを持ってきて樋の端に置いて傾斜を付け水を流し始めた。「水が流れた」「ここにも置いてみよう」</p>  <p>「ちょっとここ持っておいて!」と次々と樋を組み合わせて水を流すことに大成功!</p> <p>「どうしてかな?」「なんでだろう?」と試行錯誤して遊ぶ姿や「できた!」「やった!」という達成感を遊びの中でたくさん経験していくことを大切にしていきたい。</p>	<p>&lt;一緒に考えよう&gt;                      ドングリや木の実など秋の自然物に触れながら遊ぶ事を楽しむ子どもたち。今までの経験から「ドングリを転がしたい」という思いをもつ子どももいる。どうすれば楽しくなるのか遊びの中で、友だちと一緒に考えたり試したりしながら遊びを進めてほしいという保育者の思いもあり、子どもたちの思いを聞きながらアイデア出したり、様々な素材を準備したりして環境を整えるようにした。</p>  <p>遊び始めた頃は、保育者に「どうしたらいい?」と尋ねてきていたが、毎日継続して遊びに取り組んだことで、遊びの振り返りの際に困ったことや上手くいかなかったことを話し合い、次の日はどうやって遊びを進めていくのか話し合うことで、「〇〇がほしい!」「これ使ってみよう!」と次第に主体的に遊び出すようになった。</p>  <p>「やってみよう」と感じられる環境作りはもちろん、育てたい子どもの姿を保育者が明確にもち、仕組んでいくことが大切である。</p>		
	他園・小学校からのコメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全身で水砂の感触を十分に楽しむことで、水砂の関心が深まり遊びが広がっていった。体を使うことが大きな刺激となり、思考力にもつながっている。うまくいかなかった時の支援が大切で、成功体験を積み重ねていく必要がある。</li> <li>・今、園や学校で環境を意図的に仕組んでいく必要があると感じた。また、子どもの遊びの様子を根気強く温かく見守ることが大切だと感じた。</li> </ul>			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「育てたい子どもの姿」を明確にもつことがとても大切だと思う。それが根底にあることで子どもの発言や姿をどう拾い上げ広めていけるかが変わっていくと思った。</li> <li>・無理やりルールに乗せるのではなく、でも「仕組む」という絶妙なバランスがなるほどです。</li> <li>・保育者が子どもの思いを十分に聞くこと、考えてみようとする言葉がけがうまくなされている。</li> <li>・使ってみよう、やってみようと思える材料、場の提供がなされている。</li> </ul>			

		5 歳児			第 1 学年			
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	
期待する子ども像		心が動く、心をほぐす ～答えがないことでも、自ら考え、しなやかな心を持ち、失敗を恐れず行動する～						
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	自立心	やってみてできたことや、うまくできなくて困った経験を通して、もっとこうしたいという思いが強くなっていく。	考えたり工夫したり、失敗したりを繰り返しながら、自分なりに最後までやってみようとする。	できた満足感や達成感から更に積極的に自分の考えを出し、自信をもって取り組むことができるようになる。	自分でできそうなことを見つけてめしたり、やり直したりしながら、新しい生活に慣れる。	経験したことをもって見通しをもち、手ごたえを感じながら、できることを積み上げていく。	経験に基づいた見通しをたてて取り組み、達成感、満足感を味わい、自信を深める。	
	思考力の芽生え	自分と友だちの思いや考えの違いに気付きながら色々な遊びや活動を楽しむ	お互いの思いや考えを伝えたり聞いたりしながら、もっと楽しくしようと工夫するようになる	グループやクラスで色々な考えを出し合い違いを受け入れて新しい考えを生み出そうとする	新しい生活や環境に慣れ、小学校の学習や活動に興味をもつ。	お互いの考えの違いに気づいたり、よさを感じたりして、ともに学ぶことを楽しむ。	ひとりで考えたり、友だちと考え合ったりして、物事を解決する面白さを味わい続ける。	
大切にしたいこと	環境単元	子どもが手に取り、自らやってみたり、もっとこうしたいと思えるような場の工夫	自分で見て触れて感動できる豊かな体験の積み重ね	友だち同士の関わり (異年齢交流を含む) が活性化する場づくり	期待感いっぱいの学びの環境	広がる つながる 学びの環境	経験・既習したことを試しながら深まる自信・意欲	
	先生の関わり	好きな遊びに夢中になれる時間や場を充実させるような関わり	共感的な受け止めと関わり	個の思いを認め、つなげる	入学までの体験を把握し、触れたいくなる、すぐ試したいくなる材料・用具の配置	広がりつながりを生む 材料・用具の配置と教師の声掛け	グループやクラスで色々な考えを出し合い違いを受け入れて新しい考えを生み出そうとする	
	キーワード	やってみたい、もっとやりたい	様々な経験の積み重ね	友だちとつながる、深まる	知っている! やりたい!	もっと もっと やりたい!	できたよ! もっとできるよ!	
主な教育課程・予想される活動	モンテッソーリ教具(生活・感覚・言語・数・文化)							
	芋の苗付け 夕涼み会 親子遠足 親子お楽しみ会		運動会 クリスマス会 芋堀		卒園式 園外保育 就学時健康診断 1日入園		〇うたてなかし (音楽科) ・園で親しんだ曲 〇いっしょにあそぼう (体育科) ・運動場・固定道具 〇がっこうだいすき (国語科) ・学校たんけん ・友だち、教職員との交流 〇おはなしごころ (国語科) ・どうぞよろしく(国語科) ・名刺を書く・挨拶をして名刺を交換する 〇たのしいがっこう (道徳科)	
	〇きものとなかし (秋の虫探し・虫の飼育) 〇たのしいあき いっぱい (秋さがし(校庭→公園→AP)) 〇あきわたのしもう (園での経験・本→AP) ・「秋の宝物」を使ったおもちゃ作り (園での経験・本→AP) ・作ったもので遊ぶ(学級→学年→異年齢)		〇おきくなつた (国語科) ・アサガオを観察し、大きくなったことを伝える文を書く。 〇なつがやってきた (夏の花や虫探し(校庭→公園) ・夏の遊び(水遊び・砂遊び) ・活動して楽しかったことを伝える絵や文章をかく。		〇あきわたのしもう (園での経験・本→AP) ・「秋の宝物」を使ったおもちゃ作り (園での経験・本→AP) ・作ったもので遊ぶ(学級→学年→異年齢)		〇きものとなかし (秋の虫探し・虫の飼育) 〇たのしいあき いっぱい (秋さがし(校庭→公園→AP)) 〇あきわたのしもう (園での経験・本→AP) ・「秋の宝物」を使ったおもちゃ作り (園での経験・本→AP) ・作ったもので遊ぶ(学級→学年→異年齢)	
	〇なつがやってきた (夏の花や虫探し(校庭→公園) ・夏の遊び(水遊び・砂遊び) ・活動して楽しかったことを伝える絵や文章をかく。		〇あきわたのしもう (園での経験・本→AP) ・「秋の宝物」を使ったおもちゃ作り (園での経験・本→AP) ・作ったもので遊ぶ(学級→学年→異年齢)		〇あきわたのしもう (園での経験・本→AP) ・「秋の宝物」を使ったおもちゃ作り (園での経験・本→AP) ・作ったもので遊ぶ(学級→学年→異年齢)		〇あきわたのしもう (園での経験・本→AP) ・「秋の宝物」を使ったおもちゃ作り (園での経験・本→AP) ・作ったもので遊ぶ(学級→学年→異年齢)	
振り返り	1学期になり年長として集まる活動も増えたが、前向きに取り組む姿勢がある。これからの課題としては、話を理解しながら聞いていくことなどがあげられる。		運動会では、子どもたちが自分で考え、作り上げることで主体的な活動となった。また、友だち同士で力を合わせる活動を通して、みんなが一つのものに取り組む楽しさを感じていた。		四季の話では、1年の振り返りを絵や写真、具体物を使って行った。活動の中では友だちと言葉を交わしたり、体を動かさず自ら自然と行事を振り返る場面もあった。最後には就学に向けて期待する声もあがった。		〇生活科では、園での秋遊びやお店さんの経験を生かしながら、グループで友だちと工夫を重ね、毎時間あてをもって活動することができた。 〇学級会「あきまつりの名前を決めよう」では「ねんちようさんがききたいとおもうことば」をキーワードに話し合いを進め、出した言葉に合わせて名前を決めることができた。 ▲交流会の準備で看板作りや物を増やすことは頑張れたが、園児に話しかけたり、わかりやすく説明することに自信が持てなかった。 ▲学級会の話し合い活動では、合意形成に向けて、自分の思いを強く出さず、友だちの意見のよいところに着目し、譲り合いを心がけることが難しく感じた。	
	〇生活科では、園での秋遊びやお店さんの経験を生かしながら、グループで友だちと工夫を重ね、毎時間あてをもって活動することができた。 〇学級会「あきまつりの名前を決めよう」では「ねんちようさんがききたいとおもうことば」をキーワードに話し合いを進め、出した言葉に合わせて名前を決めることができた。 ▲交流会の準備で看板作りや物を増やすことは頑張れたが、園児に話しかけたり、わかりやすく説明することに自信が持てなかった。 ▲学級会の話し合い活動では、合意形成に向けて、自分の思いを強く出さず、友だちの意見のよいところに着目し、譲り合いを心がけることが難しく感じた。		〇生活科では、園での秋遊びやお店さんの経験を生かしながら、グループで友だちと工夫を重ね、毎時間あてをもって活動することができた。 〇学級会「あきまつりの名前を決めよう」では「ねんちようさんがききたいとおもうことば」をキーワードに話し合いを進め、出した言葉に合わせて名前を決めることができた。 ▲交流会の準備で看板作りや物を増やすことは頑張れたが、園児に話しかけたり、わかりやすく説明することに自信が持てなかった。 ▲学級会の話し合い活動では、合意形成に向けて、自分の思いを強く出さず、友だちの意見のよいところに着目し、譲り合いを心がけることが難しく感じた。		〇生活科では、園での秋遊びやお店さんの経験を生かしながら、グループで友だちと工夫を重ね、毎時間あてをもって活動することができた。 〇学級会「あきまつりの名前を決めよう」では「ねんちようさんがききたいとおもうことば」をキーワードに話し合いを進め、出した言葉に合わせて名前を決めることができた。 ▲交流会の準備で看板作りや物を増やすことは頑張れたが、園児に話しかけたり、わかりやすく説明することに自信が持てなかった。 ▲学級会の話し合い活動では、合意形成に向けて、自分の思いを強く出さず、友だちの意見のよいところに着目し、譲り合いを心がけることが難しく感じた。		〇生活科では、園での秋遊びやお店さんの経験を生かしながら、グループで友だちと工夫を重ね、毎時間あてをもって活動することができた。 〇学級会「あきまつりの名前を決めよう」では「ねんちようさんがききたいとおもうことば」をキーワードに話し合いを進め、出した言葉に合わせて名前を決めることができた。 ▲交流会の準備で看板作りや物を増やすことは頑張れたが、園児に話しかけたり、わかりやすく説明することに自信が持てなかった。 ▲学級会の話し合い活動では、合意形成に向けて、自分の思いを強く出さず、友だちの意見のよいところに着目し、譲り合いを心がけることが難しく感じた。	

		5 歳児			第1学年
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7
期待する子ども像	<p>心が動く、心をほぐす ～答えがないことでも、自ら考え、しなやかな心を持ち、失敗を恐れず行動する～</p>				
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	自立心	やってみてできたことや、うまくできなくて困った経験を通して、もっとこうしたいという思いが強くなっていく。	考えたり工夫したり、失敗したりを繰り返しながら、自分なりに最後までやってみようとする。	できた満足感や達成感から更に積極的に自分の考えを出し、自信をもって諦めずに取り組むことができるようになる。	
	思考力の芽生え	自分と友だちの思いや考えの違いに気付きながら色々な遊びや活動を楽しむ	お互いの思いや考えを伝えたり聞いたりしながら、もっと楽しくしようと工夫するようになる	グループやクラスで色々な考えを出し合い違いを受け入れて新しい考えを生み出そうとする	
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られた		<p>○芋の苗付け～栽培</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芋の苗付けに向けて、自分で活動の服装や集合場所、時間を確認して行動することができた。時間を確認しておらず集合時間に間に合わなかった子に対しては、「もうみんな集まっているよ」声をかけに行く姿があり、友だち同士の声の掛け合いで気付ける姿があった。</li> <li>・活動の中では流れや道具の使い方の説明を聞きつつ、「マルチシートは芋を虫から守るんだよ」「それはトンボっていう名前だよ」と自分の考えを発表する姿があった。</li> <li>・これから芋が成長するためには、どのようにお世話をする必要があるか、と問うと「水を毎日やる」「雑草を抜く」などの意見が出たことで、明日からの観察に向けての意欲を高めていた。後日観察用紙にて、絵や数字ひらがなを使って生長の様子を記す姿があった。</li> <li>・1か月経つと、数名から「芋が枯れていて穴から葉が出てきていない」と声掛けがあり、なぜこうなったのか、これからどうしていくかについて考えられた。「もっと水をあげればいいんじゃない?」「もう枯れているのに意味ないよ」「このままでは芋が出来ても皆の分足りないぞ!」「もう一度買って、今度こそ枯らさないように大切に育てよう」と多くの話合いの中で決める事が出来た。</li> </ul> 	<p>○運動会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会の練習に向けて、自分で活動の服装や集合場所、時間を確認して行動することができた。</li> <li>・組体操の活動では、自分たちでどのように取り組んでいきたいかということを考えて話し合い、「そら」をテーマにすることとなった。「浮いている飛行機」「プロペラが回るヘリコプター」「キラキラ光る星」など、子どもたちから出てきた発想をみんなで共有し、それを具体的に手を広げたり腰をかがめたり、回ったりする体の動きで表現していった。</li> <li>・例えば、「プロペラが回るヘリ」では回る回数や方向、速さなどについて、どうすれば良いか子どもたちが考えを出し合った。最終的には6回右回りで回って、最後はガソリンが減るのでゆっくり、回って止まる、バッテリーことを示すのにジャンプしようとなった。このように本番までに子どもたちが案を出し合い、動きを修正しながら完成に繋げ、本番も生き生きとした表情で楽しみ、自信をもって表現することができた。</li> </ul> 		
他園・小学校からのコメント		植物を育てる中で子どもたちと「枯れる」ということを経験できたのも素晴らしいこと。「なぜ枯れたのか」「これからどうするか」ということを話し合い、考える機会を持つ事が大切。小さな変化に対して一緒に気づき、取り組むことが子どもたちにとって大きな発見や学びに繋がっていく。	子どもたちが何も無い状態から形や名前、動きを考えていることが自主的で良かった。「もっとこうしてはどうか?」とより良くするために子ども達が実際に体を使って考えていくことで、みんなで一つの物を作っているという実感も湧いてきていたように感じる。		

④

## 守山市立認定こども園守山幼稚園・守山市立守山小学校

研究主題： 気づき、考え、主体的に学ぶ子どもの育成  
～自立をめざした幼小連携を通して～

## 1 主題設定の理由

本地域の子どもたちは、自分から物事に関わろうとすることや、思いを表出することに自信がもちにくいという傾向があるため、自分から進んで行動するという姿につながりにくい。幼小相互の教育を理解し合い、青少年赤十字 JRC の発祥校である特色を踏まえ、JRC の態度目標を生かした「気づき、考え、自己決定」のできる子どもの育成を目指して主題を設定した。

## 2 幼児教育と小学校教育をつなぐ取組や架け橋期カリキュラムに関する取組など

## (1) 実施した研修会等

実施日	対象	内容等
4月 4日	幼小管理職、園主任、担当者	加配教員（担当者）の幼稚園での勤務に向けた打合せ
4月 19日	幼小管理職、園主任、担当者	研究課題と研究テーマ、年間実施計画について
6月 3日	幼小管理職、園主任、3,4,5歳児担任、1年担任、担当者	合同研修会① 幼稚園参観から感じたこと、保育の見方について
6月 6日	幼小管理職、5歳児担任、園主任、担当者	推進委員会① 幼小の接続、交流活動について、今後の見通し
7月 7日	幼小管理職、園主任、5歳児担任、担当者	推進委員会② 取組の進捗状況、夏季休業中の取組、架け橋期カリキュラムについて
	園主任、5歳児担任、1年担任、担当者	合同研修会② 小学校参観から感じたこと、指導の見方について
8月 8日	保幼小職員（守山小学校区）	幼小接続研修会 福井大学岸野准教授の講話
8月 22日	幼小全職員	合同研修会③ 滋賀短期大学久米教授の講話、県指導主事からの指導講話
8月 25日	幼小管理職、園主任、5歳児担任、1年主任、担当者	推進委員会③
9月 26日	5歳児担任、1年担任、園主任、担当者	保育・授業指導案検討、共有しておくべきこと 架け橋期カリキュラムについて
10月 13日	幼小管理職、園主任、5歳児担任、1年担任、担当者	指導案検討、架け橋期カリキュラム検討 県指導主事からの指導講話
10月 18日	幼小管理職、園主任、5歳児担任、1年担任、担当者	推進委員会④ 架け橋期カリキュラムの検討、公開当日の日程、役割分担等について
11月 22日	幼小管理職、園主任、5歳児担任、1年担任、担当者	推進委員会⑤ 印刷物、公開当日の流れ、役割分担等の最終確認
11月 28日	幼小職員、外部参会者	公開研修会、合同討議、県指導主事からの指導講話
12月 6日	幼小管理職、園主任、5歳児担任、1年担任、担当者	架け橋期カリキュラム検討会① 公開研修会の振り返り、今後の取組について
1月 12日	幼小管理職、園主任、5歳児担任、1年担任、担当者	架け橋期カリキュラム検討会② 県指導主事からの講話
3月（予定）	幼小管理職、園主任、5歳児担任、1年担任、担当者	推進委員会⑥ 令和5年度（2年次）のカリキュラム、取組についての確認

※ 園主任と担当者は、随時打合せの場を設定

## (2)加配教員の取組

### ◆保育への参画について

5歳児の2クラスを中心に保育の様子を参観してきた。園児と共に遊んだり、園児の活動を見守ったりしながら、園の取組や保育者の関わり方について学んだ。子どもが困難にぶつかった時、園では「どうしたらいいと思う？」と、まず子どもに考えさせていた。小学校では時間を気にして教師がすぐに答えを与えがちである。子どもの考え、子どもの思いを尊重する指導の在り方を学んだ。幼小の子ども姿や支援の仕方について、通信で幼小の職員に発信していった。

### ◆保育の準備、打合せへの参加について

- ・園の打合せ、職員会議に参加
- ・夏季休業時の教材研究（3,4,5歳）に参加、サツマイモ植えの前の畝作り、綱引きロープの整頓など、園行事の際の準備等に参加
- ・可能な範囲で園の研究保育の参観、講師講話の聴講

### ◆架け橋期カリキュラムの作成に向けて

本小学校区のテーマである「自立心」「思考力の芽生え」の育ちについて系統立てて考えることから始めた。次に、保育・授業の中で大切にしたい4つの姿（心が動く、試行錯誤、伝え合う、振り返る）を特に生かすことのできる活動をあげ、その活動に必要な環境や教師の支援を考えて、5歳4月から1年生3月までの2年間の架け橋期カリキュラムとしてまとめていった。本校区の園児・児童に合った各項目の内容について、幼小で繰り返し意見を出し合い作成した。



【通信の配布】

(別紙資料①参照)

## 3 実践事例

### (1) 夏季幼小合同研修会

8月22日夏季合同研修会では、滋賀短期大学久米央也教授の講話より指導者の姿勢について、下記のような点を学ぶことができた。全職員が幼小接続の必要性について考える機会となった。

- ・教師の「学ばせたいこと」と子どもの「学びたいこと」をつなげ、子どもの力を伸ばす。
- ・子どもが自分で考え気付く機会をつくる。
- ・子どもの思いを受け止める言葉、自信や満足感をもたせる言葉を大切にする。
- ・非認知能力の育成を大切にする。
- ・幼小の職員が互いの取組やねらいを理解し合う。

### (2) 5歳児と1年生の交流

生活科「あきとなかよし」で、1年の作った〈あきランド〉に5歳児を招待した。その場だけの交流にとどまらず、当日までに休み時間を利用して招待状を届けたり、一緒に遊んだりした。学活の時間を使って小学校のグラウンドでリレーや綱引きなどを楽しんだ。この交流によって1年生と5歳児が顔見知りとなり、遊んだことがある友だちとして互いに相手意識をもつことができた。

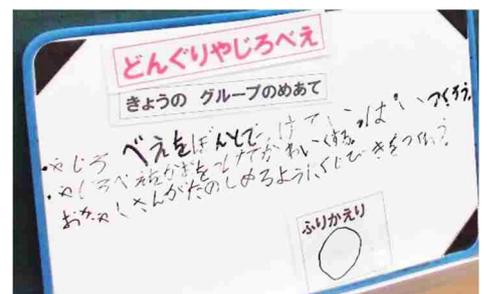


【いっしょに綱引き】

### (3) 1年生活科「〈あきランド〉に5歳児さんを招待しよう」

学年で各クラスの〈あきランド〉を見せ合い、遊んだ後、1年生の中から自然に5歳児を招待したいという意見が出た。「せっかく作ったのだからもっと多くの人に見てもらいたい」「この前遊んだ5歳児にも遊ばせてあげたい」

5歳児が喜んでくれる〈あきランド〉に改良することが新しい目標となった。グループごとに毎時間のめあてを決め、うまくいったことやいかなかったことを振り返り、友だちからもらったアドバイスを次の活動へとつなげていった。



【自分たちでめあてを決定】

当日は、楽しく遊ぶ5歳児を見て、1年生も店の人になりきり生き生きと対応する姿が見られた。活動後の振り返りでは、1年生の「どうでしたか？」の質問に意欲的に答える5歳児の姿が見られた。1年生にとっては、触れ合う相手を意識して活動を作り上げる機会となり、5歳児にとっては小学校を知る機会となった。



【みんなで意見を出し合い改良】



【遊んだ後は、一緒に振り返り】



#### (4) 5歳児「ペットボトルジョウロをきれいに片付けたい！」

野菜の苗に水やりをしたいけど、ペットボトルジョウロは大きなごみに入っていてすぐには取り出せない。自分のペットボトルを探すのも一苦勞である。「どこにあるのか見つけるの大変」「動かしたらすぐに倒れちゃう」が「どうしたらいいんだろう」と考えるきっかけになった。4歳の時の片付け経験と身近にある材料を使ってペットボトルジョウロの置き場所を作り始めた。2人の子の気付きから始まった活動だったが、作るうちに人数が増えていった。



【整頓されたペットボトル】

人数分の牛乳パック集め、高さを調節しながら切る作業、誰のものか一目で分かるシール付けなど5歳の子どもたちが工夫を凝らし、何日もかけて取り出しやすい入れ物を作り上げた。

誰かのために始めた活動ではなかったが、完成すると他の子どもたちからも「取りやすくなった」「すぐに見つけられる」と喜んでもらえた。

(別紙資料②-1参照)

## 4 研究の成果と課題

### 【成果】

- ・ 保育や授業を見ることで、互いの取組の様子や大切にしていることを知ることができた。
- ・ 互いの活動内容を知ることで、それを踏まえた保育・授業の展開を考えることができた。
- ・ 子どもの思いを尊重するという意味、架け橋期の学びについて改めて考えることができた。
- ・ 休み時間を利用した交流が、園と小学校の間でしやすくなった。子どもたちも交流を楽しみにしており、相手意識をもって活動に取り組む力が育った。

### 【課題】

- ・ 5歳児と1年生の交流が中心で、職員全体に連携の意識を広げることが難しかった。
- ・ 幼小合同研修会は学びが多かったが、時間の確保が難しかった。
- ・ 保育・授業の参観時に、どのような視点で見るとよいか分かりにくいことがあった。

## 5 今後に向けて

- ・ 今年度できた幼小のつながり、休み時間を利用した交流、生活科や行事と結び付けて行う交流の機会を継続していきたい。子どもたちの交流の場を、年間を通してもてるように計画を立てていきたい。
- ・ 全職員に幼小接続についての意識を広げる工夫が必要であり、そのための保育・授業を参観しやすい仕組み作りをしていきたい。参観後の意見交流については、会議の形だけでなく、思いを知り合える工夫、意見を伝え合える工夫をしていきたい。
- ・ 指導計画などを事前に伝え、視点を決めて参観できるようにしていきたい。
- ・ 今年度の架け橋期カリキュラムを校区内に広げ、見直しを継続していきたい。

		5 歳 児			第 1 学 年			
時 期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	
期待する子ども像		<b>気付き、考え、主体的に学ぶ</b>						
		<b>自ら考え、行動し、主体的に生活する子ども</b>			<b>課題に向かって意欲的に取り組み、自分なりに考えて粘り強く取り組む子ども</b>			
幼児期の終わりに育ってほしい姿	★今年度の重点★ 自立心	自分の力を発揮し、進んで活動に取り組む。	自分なりに課題をもち、自分の力でやり遂げる喜びを味わう。	いろいろな活動に主体的に取り組み、充実感を味わう。	これまでの経験を生かしてできることに取り組み、やり遂げる喜びや楽しさを感じる。	課題を自分のこととして受け止め意欲的に取り組み、やり遂げることで自信をもつ。	自分なりに考え、人の意見を聞きながら納得できるまで取り組み、達成感をもつ。	
	思考力の芽生え	・遊びに必要なものを、自分なりに工夫してつくることを楽しむ。 ・友だちと関わる中で、自分なりに試したり工夫したりして遊ぶ。	・いろいろな素材や材料に関わって遊び、試したり工夫したりする。 ・友だちと意見を伝え合う中で、刺激を受けたり、考えたりしながら遊ぶことを楽しむ。	・いろいろな物の性質や仕組みに気付き、考えたり工夫したり予想したりして遊ぶことを楽しむ。 ・友だちと互いのよいところを認め合いながら、自分たちで遊びを進めていく楽しさを味わう。	園での経験を生かし、試行錯誤を通して考える。	課題に向かって積極的に関わり、周囲の人と触れ合いながら考える。	探究心をもって粘り強く取り組み課題を解決しようとする。	
キーワード		<b>心が動く ・ 試行錯誤 ・ 伝え合う ・ 振り返る</b>						
大切にしたいこと	環 境	・生活に身近な様々な素材や用具がある。 ・生活に必要なことが分かりやすい環境 ・自分なりの気付きや考えを表す場や機会がある。  ・ <b>経験を生かすことができる環境</b>	・生活の流れにゆとりがある。 ・友だちと刺激を受けあう環境。 ・友だちと相談したり協力したりできる環境。	・一人ひとりのよさを認め合う機会がある。 ・自分自身で生活を創り出す機会。 ・経験を生かしながら、予想したり試したり確かめたりしたくなるような状況がある。	園での経験を生かすことで、楽しみながら活動に参加できる環境	友だちと考えを伝え合いながら課題に向かい、思いのままに試行錯誤ができる環境	自分の思いを自分の選んだ方法で表現し、自分自身の成長を感じることができる環境	
	教師の関わり	・安心して自分の思いを出せるような関わり ・一人ひとりの気付きや考えを受容する。  ・ <b>経験を引き出す言葉かけ</b>	・共に考えたり工夫したり、失敗や挑戦を楽しむ姿勢。 ・状況や場の整理。	・様々な考えを認めたり、それを言葉にして他の幼児に伝えるようにしたりする。 ・自分たちで行動しようとする気持ちを支える関わり。	・新しい環境で、子どもが園での経験を生かして動きやすいよう教室環境を整える。 (視覚支援、短くて分かりやすい指示、体験を引き出すような言葉かけ) ・担任以外にも困ったら助けてくれる上級生や担任以外の先生たちが学校にいることに気付けるようにする。 (集団での登下校、学校探検、子ども同士の交流、体験を重視した学習)	・子ども同士が交流し合う場を増やす。(学習、休み時間、係や当番の仕事、JRC活動) ・子どもが学級の課題を自分事としてとらえ、自主的に活動を広げていくための振り返りの場をつくる。 ・振り返った後、子どもが思いを試せる場(時間、材料・道具、場所等)を保障する。子どもが考えた活動のルールを大切にする。	・今までの自分を振り返り、できるようになったことを話し合う場の設定。 ・子ども自身に成長した自分を意識させる。家族や上級生のしてくれたことや思いに気付けるように生活を振り返る場をつくる。 ・2年生になる喜び、次年度への期待の気持ちを温かく見守る。	
主な教育課程	<b>遊び</b> ・様々な素材や用具に触れて遊ぶ。(砂、土、水、泥、シャベル、バケツ、桶、空き箱、カップ、段ボール、セロハンテープ、ペン等) ・季節の自然物や生き物に関わって遊ぶ。 ・ルールのある遊びをする。(鬼遊び、リレー、ボール遊び、正月遊び等) ・自分たちで遊びや生活に必要なものを準備したり、場を整えたりしていく。				入学式、JRC タイム 生活「がっこうだいすきあいいうえお」 「いくぞ!がっこうたんけんたい」 「げんきにそだて わたしのはな」 ・学校生活の一日の流れが分かる。 安全な登下校、給食の準備・片付けの仕方、ロッカーや机の位置を知る、持ち物の整理整頓 ・学校生活に慣れ、友だちとの関わりを楽しむ。		運動会、校外学習、JRC タイム 生活「あきとなかよし」 「ひろがれえがお」 ・学習や生活の中で、自分の思いを話したり、友だちの思いを最後まで聞いたりする。 ・友だちとの関わりを楽しみながら活動に取り組む。 ・学級・学年のルールを守って遊ぶ。 ・5歳児と交流する。(生活科、学活、休み時間)	
予想される活動	<b>生活</b> ・園生活での約束やきまりに気づき、守って過ごす。 ・健康で安全な生活の習慣を身に付け、進んで行う。						新1年半日入学、六送会、JRC タイム、卒業式 生活「ふゆとなかよし」 「もうすぐ2年生」 ・お世話になった人、これから入学してくる新1年生を意識して自分たちで活動をつくっていく。 ・自分の成長を感じ、2年生への期待をもつ。	

		5 歳 児		
時 期	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	第1学年 4・5・6
期待する子ども像		<b>気づき、考え、主体的に学ぶ</b> <b>自ら考え、行動し、主体的に生活する子ども</b>		
★今年度の重点★ 幼児期の終わりに育ってほしい姿	自立心	①自分の力を発揮し、進んで活動に取り組む。	①自分なりに課題をもち、自分の力でやり遂げる喜びを味わう。	①いろいろな活動に主体的に取り組み、充実感を味わう。
	思考力の芽生え	②遊びに必要なものを、自分なりに工夫してつくることを楽しむ。 ③友だちと関わる中で、自分なりに試したり工夫したりして遊ぶ。	②いろいろな素材や材料に関わって遊び、試したり工夫したりする。 ③友だちと意見を伝え合う中で、刺激を受けたり、考えたりしながら遊ぶことを楽しむ。	②いろいろな物の性質や仕組みに気づき、考えたり工夫したり予想したりして遊ぶことを楽しむ。 ③友だちと互いのよいところを認め合いながら、自分たちで遊びを進めていく楽しさを味わう。
キーワード		<b>心が動く ・ 試行錯誤 ・ 伝え合う ・ 振り返る</b>		
幼児期の終わりに育ってほしい姿が見られた子どもの学びの姿	<p>★自分たちで遊びや生活に必要なものを準備したり、場を整えたりしていく。</p> <p><u>6月上旬</u> 大きなカゴの中に、学級の子どもたち全員のペットボトルジョウロが入れている。水やりの際に、自分のペットボトルジョウロが見つからず、数人の子どもがカゴの中を整えていた。 A児「どこにあるのか分からん。」 B児「ぐちゃぐちゃやし探しにくい。」 T「確かにどこにあるのか見つけるの大変だね。」「ペットボトルもすぐに倒れてしまうね。」 B児「うん。動かしたらすぐ倒れちゃう。どうしたらいいやろう。」③ A児「1個ずつ入れるようにしたらいいかも。」③ 「まめちっちのキラキラのやつ入れてみたいに。」（4歳児の時の運動遊びの際にリストバンドを片付けていたもの）②③ T「どんなのだったっけ？」仲間としての立ち位置の言葉がけ A児「牛乳パックをつなげてあったやつ。」② B児「あれか！それいいかも。」と牛乳パックを使って作り始めた。③ A児、B児、その他数人の子ども達も加わり、ペットボトルジョウロ入れを作り進めた。作る中で、クラスの人数分である29個の牛乳パックを確保したり、ペットボトルジョウロに貼っているマークシールが見えるよう牛乳パックの高さを実際に試しながら調整して切ったりしている。①② 数日かけて完成した。 作っていた子どもたち「できた！」「いい感じ！」「これでわかりやすくなった」 T「いいものができたね！！」 完成したペットボトルジョウロ入れを使う中で、「これやったらすぐに見つけられる！」「取りやすくなったな。」と他児からもたくさんの声が聞こえてきた。</p> <p>実際の状況や教師自身が感じたことを言葉にすることで、問題点を明確に捉えられるようにする。</p> <p>試行錯誤する過程を大事にしたいので、じっくりと向かえる時間の保障をし、見守る。</p>	<p>★様々な素材や用具に触れて遊ぶ。</p> <p><u>11月下旬</u> A児とB児が作った焼きそば屋さん、お客さん（教師）が来て遊んでいる。 A児「いらっしやいませ！」 B児「メニューはこれやで。」 T「じゃあ、激辛焼きそばください。」 A児「かしこまりました。」 B児「はい、できました！」 T「わあ、おいしそう！」（食べる真似をする）「おいしいけど、結構辛いね。お水はありますか？」 A児「お水は…ないな。」① B児「どうする？」① A児とB児で材料置き場を見に行く。プリンカップと水色の画用紙を取ってくる。①② A児「はい、お水です！」① T「ありがとう。（飲む真似をして）おいしいわ。でも少し量が少ないから、おかわりがほしいな。」 A児「おかわりか…。」① A児とB児は再び材料置き場を見に行く。紙コップをいくつかと、水色の画用紙を取ってくる。①② A児「はい、おかわりです！」① T「ありがとう！あ～おいしかった。また来るね。」 A児「ありがとうございます！」① B児は水をたくさん作る。①② A児「水が出るやつがあった方がいいんちゃう？」 材料置き場へ行き、長い箱を取ってくる。①② B児「水をそこに入れるわ。」①②③ T「何作ってるの？」 A児「ここから水が出て、おかわりできるで。」①②③ T「本当や！これならすぐおかわりができるしいね。」</p> <p>よりイメージをもち、試行錯誤して遊びを進めていってほしい。</p> <p>試行錯誤しながら、遊びをよりよくしていくことの楽しさを感じていけるようにする。</p> <p>遊びをよりよくしようとしていた姿を受け止め、達成感につながるようにする。</p>	<p>★自分たちで遊びや生活に必要なものを準備したり、場を整えたりしていく。</p> <p><u>1月中旬</u> 新学期初日、持参した荷物や、提出する書類がたくさんある。 A児「どうやって出そう。」① B児「このカゴ使おう。」① それぞれの書類の大きさに合うカゴを考え、準備する。① すこやかほたるっこ（冬休みの約束表）は、半分に折った状態でカゴに入れられていて、かさが増してもう少しで入らなくなりそうな状態である。 C児が書類を提出しようとしてきて、カゴの方を考えながら見ている。② T「何か困ってる？」 C児「いっぱいになってきてる。」①② T「そやな。これやとどうかな？」 C児「みんなの分が入らへん。」①② T「ほんまやな。」 C児「こっちのカゴも出すわ。」と言って、近くにいた子どもたち数人で相談し、書類を広げて出せる大きさのカゴをもう一つ用意する。①②③</p> <p>自分たちで必要なものを準備し、生活を整えていってほしいと思い、いろいろな大きさのカゴをいつでも使えるように置いておく。</p> <p>自分たちで解決しようとする姿につながってほしいと思い、感じたことや気付いたことを引き出したり、共感したりする。</p>	
	振り返り	<p>○経験をもとに試行錯誤することで、自分たちの生活をより良くしていこうとする姿が見られた。 ●個別に働きかけることはできていたが、学級の子どもたち一人ひとりが自分事として捉えられるような、集団としての援助も必要である。</p>	<p>○教師がきっかけを与えることで、より試行錯誤して遊びを進めていこうとする姿につながった。 ○これまでの経験を生かすことのできる素材や用具がいつでも自由に使える環境があることで、自分なりに試行錯誤して作ろうとする姿につながった。</p>	<p>○自分たちで自由に使えるもの（いろいろな大きさのカゴ）があることや、自由に使える機会が保障されていることで、自分たちで進んでカゴを用意し、生活を整える姿につながった。 ○子どもの思いに共感したり、感じたことや気付いたことを引き出したりする教師の関わりがあったことが、子どもたち自身が考え、自分で新たなカゴを準備しようとする姿につながった。</p>

		5歳児	第 1 学 年		
時 期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	
期待する子ども像		<b>気付き、考え、主体的に学ぶ</b>			
		<b>課題に向かって意欲的に取り組み、自分なりに考えて粘り強く取り組む子ども</b>			
★ 幼 児 期 の 終 わ り ま で に 育 っ て ほ し い 姿	★ 自 立 心	① これまでの経験を生かしてできることに取り組み、やり遂げる喜びや楽しさを感じる。	② 課題を自分のこととして受け止め意欲的に取り組み、やり遂げることで自信をもつ。	③ 自分なりに考え、人の意見を聞きながら納得できるまで取り組み、達成感をもつ。	
	★ 思 考 力 の 芽 生 え	④ 園での経験を生かし、試行錯誤を通して考える。	⑤ 課題に向かって積極的に関わり、周囲の人と触れ合いながら考える。	⑥ 探究心をもって粘り強く取り組み課題を解決しようとする。	
キーワード		<b>心が動く ・ 試行錯誤 ・ 伝え合う ・ 振り返る</b>			
★ 幼 児 期 の 終 わ り ま で に 育 っ て ほ し い 姿 が 見 ら れ た	★ 子 ど も の 学 び の 姿	<p>【生活「いくぞ!がっこうたんけんたい」】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探検場所や見つけたものについて子ども同士の話し合いを大切に学習を進めた。園での経験を引き出す言葉かけを大切にすることで、子どもたちが園を思い出しながら意欲的に発言できた。①</li> <li>・園と小学校を比べて似ている所（職員室）や違う所（特別教室）を振り返ることで、小学校の特徴に気付くことができた。園にはない小学校の施設に関心をもって探検ができた。④</li> </ul> <p>【生活「げんきにそだて わたしのはな」】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鉢の置き場所や水やりの仕方など、園での栽培経験を出し合ってから種植えをすることで、進んで水やりをしたりアサガオの生長する様子を見に行ったりすることができた。①</li> <li>・芽の出る様子を体で表現させることで、発芽するアサガオの力、どんどん伸びていく力を感じながら考えることができた。④</li> </ul> <p>【学校生活に慣れる、自分らしく頑張れる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図や写真等の入った掲示による視覚支援によって、登校後に自分の持ち物を整頓しておくことができた。①</li> <li>・子どもたちの何気ない優しさや粘り強さ、よい行動を見付けては学級全体に紹介、協力して何かを成し遂げていくことの良さを感じられる学習展開を心がけた。そうすることによって友だちの行動や気持ちについて考える機会ができた。また、時間の使い方（何から始める、何をして過ごす等）を自分で決めて活動する機会や、活動後の振り返りの時間を授業の中で設定した。自分の活動を振り返るという習慣をつけられた。①④</li> <li>・園で大切にされている言葉かけ「どうしたらいいと思う?」を使うようにして、子どもが考える機会を大切にした。④</li> </ul>	<p>【JRC タイム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・散らかったトイレのスリッパや廊下歩行の仕方、図書室の使い方などについて子どもたち自身で振り返ることができた。誰かのためにできることを考え、実践していく機会をもつことができた。2学期末には、散らかった図書室の様子に気付き、自分たちで片付ける取組ができた。②⑤</li> <li>・5歳児や他学年との交流の機会をもち、生き生きと活動することができた。②</li> </ul> <p>【生活「あきとなかよし」】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動に必要な材料を子どもが自分で考えて準備できた。②</li> <li>・園での経験を出し合いながらも、図書室の本を参考にして作ったことのないものに挑戦する姿が見られた。②</li> <li>・教師は「教える」のではなく、「促す」声かけに努めた。活動の中で困ったことを、子どもたちが振り返りの場で全体に広げて解決していく姿が見られた。互いの気付き、協力、安心感につながった。⑤</li> <li>・5歳児を招待する取組では、一緒に遊ぶことで相手意識をもって活動することができた。休み時間に交流を実施できた。（あきランドに5歳児さんを招待しよう）⑤</li> </ul> <p>【生活「ひろがれえがお」】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園や家庭での経験を学習活動につなげ、「やったことがない」「分からない」という子が負い目をもたないように配慮することで、自信をもって活動する姿が増えた。友だちの前で話すこと、友だちの話を聞くことに集中する姿が見られた。②</li> <li>・挑戦してみた仕事についての発表では、説明を分かりやすくするための小道具を子どもたちが考えて作った。発表のために何が必要なのか、どう発表するとよいか、子どもが熱心に考えることができた。小道具作りを発表への意欲につなげることもできた。⑤</li> <li>・園での経験を出し合った時に、「今のみんなならどんなことができるかな」という話をする中で、当時の自分と今の自分を比較しながら仕事に挑戦する姿が見られた。ただ仕事をするのではなく、それによって誰かを笑顔にすることができることも気付くことができた。⑤</li> </ul>	<p>新1年半日入学、六送会、JRC タイム、卒業式</p> <p>生活「ふゆとなかよし」</p> <p>「もうすぐ2年生」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お世話になった人、これから入学してくる新1年生を意識して自分たちで活動をつくっていく。</li> <li>・自分の成長を感じ、2年生への期待をもつ。</li> </ul>	
				<p>○小学校の学習や生活に慣れ、元気よく過ごすことができた。</p> <p>●学校探検の前の学校巡りの時に、もう少し各教室の様子が分かるようにしておき（室内に入れる、教具等が少し見える等）、探検場所への関心を高める手立てがあるとよい。今年度は感染防止の面からビデオでの先生紹介となったが、学校で働く先生たちと直接話せる機会をつくってほしい。</p> <p>●5・5交流で学校案内を実施した時は、次年度にそれを生かして学校探検を計画できる。5歳児と1年だけでなく、他学年との交流内容も把握しておくとい。</p>	<p>○学校外へ出かける活動が短期に集中していたので計画が立てやすかった。</p> <p>○学習の中での振り返りから次の課題を子ども自身が見付けられるようになってきた。自分の成長に気付くことができた。</p> <p>●秋に関する図書が1年廊下に設置され、役に立った。子どもたちのおもちゃ作りに役に立つ図書をもっと増やしたい。</p>

⑤

## 日野町立南比都佐幼稚園・こばと園・南比都佐小学校

研究主題：自分の思いや考えを表現できる環境づくりや支援の在り方

～「育ち合う」子どもから「学び合う」子どもへ～

## 1 主題設定の理由

本校・園がある日野町では、地区によって環境や地域性は様々であるものの「命が宿ってから義務教育修了までの16年」を『16年プロジェクト』として、子どもたち一人ひとりに「自立する力」と「共に生きる力」を育むために、学校・園・家庭・地域・行政が一つになって取り組んでいる。

そこで、それぞれがもつ課題や特徴を踏まえた上で、目指す保育・教育をもとに主題を設定することとした。

- ・自分の思いを素直に表現する子どもたちを十分に受け止めながら、言葉で伝えられる土台づくりをし、その中で、友だちと協力し合い、目的を達成していく喜びを味わえるようにしたい。

- ・少人数ではあるものの、自分の思いや感じたことを表現し合い、互いの成長を認め合うとともに、友だちと一緒に互いの思いを伝えながら遊ぶ経験を積ませたい。

- ・中学校進学を見据えた上で、自信をもって自分の伝えたいことを伝えられる力を付けたい。

これらのことより、主題を設定し、10の姿のうち「協同性」「言葉による伝え合い」を中心に研究を進めることとした。

## 2 幼児教育と小学校教育をつなぐ取組や架け橋期カリキュラムに関する取組など

## (1)実施した研修会等

実施日	対象	内容等
5月12日	全管理職、担当者	・保幼小接続推進委員会（事業に関する打合せ）
6月7日	小管理職、1年・5歳児担任	・保幼小連絡協議会（1年授業公開、情報交換）
6月24日	小全職員、保幼（希望者）	・合同研修会①（2年生の授業参観・研究会）
7月12日	小幼（希望者）、保全職員	・合同研修会②（こばと園5歳児の保育参観・研究会）
7月21日	全管理職、1年・5歳児担任	・架け橋期カリキュラム編成委員会①（指導主事の講話）
8月5日	小全職員、保幼（希望者）	・合同研修会③（大学教授の講演・グループ協議）
9月9日	全管理職、1年・5歳児担任	・合同研修会④（公開研修会に向けた指導案検討）
10月28日	全管理職、1年・5歳児担任	・合同研修会⑤（公開研修会に向けた指導案検討）
11月25日	小全職員、保幼（希望者）	・公開研修会
12月22日	全管理職、1年・5歳児担任	・架け橋期カリキュラム編成委員会②（カリキュラムの完成）
1月24日	小全職員、保幼（希望者）	・合同研修会⑥（1年生の授業参観・研究会）
2月9日	全管理職、1年・5歳児担任	・架け橋期カリキュラム編成委員会③（実施に向けて）
3月2日	全管理職、担当者	・保幼小接続推進委員会②（1年間のまとめ・次年度構想）
3月未定	小管理職、1年・5歳児担任	・保幼小連絡協議会（新1年生について）
年間	小全職員	・こばと園園内研究の保育参観・研究会参加
年間	小全職員	・南比都佐幼稚園への保育参加

## (2)加配教員の取組

## ◆保育へ参画して

幼稚園・保育園へ週に各1日（計15時間程度）勤務し、5歳児クラスを中心に保育に参画した。保育者と共に子どもたちと活動し、保育者の動きを近くで見ること、小学校教育との違いや繋がりを知った。中でも、保育者が子どもの様子を見取るときには、子ども一人ひとりの成長を子ども一人ひとりのものさしで見取っていること、「させる」

ではなく「したくなる」環境設定を行っていることやそれを実現できる支援や環境を適材適所で提供していることは、小学校でももっと取り入れていくべきだと感じた。また、制作や歌唱や生活面での約束は小学校と共通しているものが多いとわかった。さらに、「振り返り」の活動は、4歳児頃から行っていることを知り、1年生でも入学してすぐに取り入れることができるとともに、「協同性」や「言葉による伝え合い」にも結び付いている活動だとわかった。



【保育の様子】

#### ◆保育の準備や打合せ、研究会に参加して

週案や打合せの様子から、子どもたちの今日までの遊びをもとに次週の予定を組み、行事などのタイミングに合わせながら子どもたちが楽しんで遊びが深められるように計画的に活動が仕組まれていることがわかった。「これをします!」と保育者が進めるのではなく、子どもたちが次にどんな遊びに繋げようとしているのか、保育者がどんな遊びに繋がればいいと望んでいるのかの両方をうまく取り入れられていると感じた。また、季節はもちろんだが、天気についても考えながら予定を組んでおられたり、遊びの広がりパターンをいくつも想定しておられたりと、保育は園で過ごす全ての時間を総合的に考えておられるということがわかった。

研究会に参加したり担任の先生と話したりする中で、子を見る視点や遊びの中身についての見方を知った。また、今の保育が大切にしていることについても理解を深めることができ、そういった育ちをしている子どもたちをどのようにして小学校で迎えるのかということについて考えるもととなった。



【保育研究会への参加】

#### ◆架け橋期カリキュラムの作成において(別紙資料①②)

まず、幼保小で集まり、2年間の終わり(1年生の3月)に「期待する子ども像」を考えた。幼保の段階で「言葉で表現する」ということが難しいのではないかと懸念はあったものの、話し合う中で、5歳児の4月~1年生の3月を見通して作成するカリキュラムということを確認した。次に、それをもとに10の姿のうち重点をおきたい項目を2つ選び、発達段階に合わせて明記した。とくに5歳児終わりから1年生にかけての姿については大きなハードルとせず、スモールステップを意識し、新しい環境に慣れさせることにも配慮した。そのあと、期待する子ども像に迫るための環境設定や関わりについて幼保が提案したものをもとに、小学校の授業の中でどう取り入れるかを対応させながら小学校での環境や関わりを設定した。最後に、予想される活動については、小学校の教科において生活科を基本として大単元としてとらえるようにカリキュラムを組み、幼保の活動との繋がりを意識しながら作成した。同時に次年度の実施に向け、時間割を作成し検証・改善に努めたい。

### 3 実践事例

#### (1) 互いに知ること

##### ・園内研や校内研への参加と幼稚園への保育参加

年度初めに、保育園の研究保育日程と小学校低学年の研究授業日程をもとに日程調整をして、全小学校教諭と多くの保育士が互いに参観できるようにした。互いに育ちと学びの様子を知るとともに、指導案からそれぞれのねらいを知り、振り返りカードを活用することで互いに学んだことを共有した。



【小学校教員が研究保育を参観】

さらに、2学期以降には全小学校教諭が幼稚園へ1・2時間程度の保育参加へ行けるように日程調整をした。保育に参加することで、実際に子どもたちと活動しながら学べる機会となった。振り返りカードを活用し、互いに感じたことを共有した。

##### ・夏休みに合同研修会を実施

夏休みには3校園の職員が集まり、福井大学連合教職大学院の 岸野麻衣 准教授からご講演をいただくと共に、グループ協議で保幼小接続について話し合う機会を設けた。講演を全員で聞いたことは、職員が同じ方向を向いて取り組んでいくための大切な機会となり、グループ協議は普段聞き合えないことを率直に話し合える有意義な時間となった。



【幼保小合同研修会】

## (2) 互いに親しむ

### ・人に親しむ

運動会や音楽会を幼稚園と合同で行ったり、5・5交流としてサツマイモ植えや焼き芋と一緒にしたりしている。また、他学年との交流として3年生が5歳児を学校林に招待して一緒に遊ぶ活動を行った。さらに、一日入学で5歳児を1年生が招いたり、幼稚園の発表会に1年生を招いたりしている。



【本を借りる園児たち】

### ・場所に親しむ

小学校の図書室を幼稚園に開放している。今年度より図書カードも作り、いつでも本を借りに来ることができるようにした。また、幼稚園の子どもは校庭の遊具で遊んだりマラソンをするためにグラウンドを走ったりしている。

## (3) 繋がりをを感じる



【授業体験会の様子】

### 授業体験会

学期に1回、授業体験会を実施した。5歳児を招待するものではなく、1年生と一緒に小学校の授業を受けるという形態をとった。第1回目は体育の授業、第2回目は図工の授業、第3回目は算数の授業を行った。授業後は、互いに感想カードを書き、今後の保育や授業に生かせるようにした。

## (4) 繋がりを探る

### 「つなぐ～NO!ゼロスタート!」の発行

加配教諭が気付いたことや感じたことを通信にして発行し、小学校・幼稚園・保育園などに掲示した。研究テーマである「環境」と「支援」または「子どもの様子」を主に綴っている。通信を見て、小学校では掲示物や環境設定について繋がりをを感じる取組を始め、幼保では保育が小学校での学習の何に繋がるかを保育者が意識するようになった。

また、幼保同士も繋がりをもちた掲示物の作成に取り組んでいる。



【「つなぐ～NO!ゼロスタート!」】

## 4 研究の成果と課題(別紙資料③)

### (1) 成果

- ・入学してくる子どもたちの経験や育ちを知ることができた。  
→無理だと思わずに子どもたちの経験を授業に生かせた。
- ・職員同士の繋がりがもてるようになった。  
→子どもの困りにどう対処しているのかというヒントが互いにもらうことができた。
- ・環境について考え、工夫できるようになった。  
→生活科スペースや虫取り網置き場を設置し、授業を時間的にも内容的にも広げられた。
- ・年間指導計画を見通すきっかけになった。  
→カリキュラム作成のために単元を整理し、幼保から繋げてできる単元を年度初めに行えた。

### (2) 課題

- ・時間の使い方の違い  
→小学校の時間割を柔軟にしたり、幼保の生活リズムを再確認したり、互いに改善する案を作る。
- ・繋がり合える時間と機会の確保  
→保育や授業で時間がない中で、無理なく繋がり合える工夫を見つけ、恒例化する。
- ・保育と授業の改善点  
→繋がりと違いを知ることができたが、違いを滑らかにする手立てを明確にし、実践・検証する。

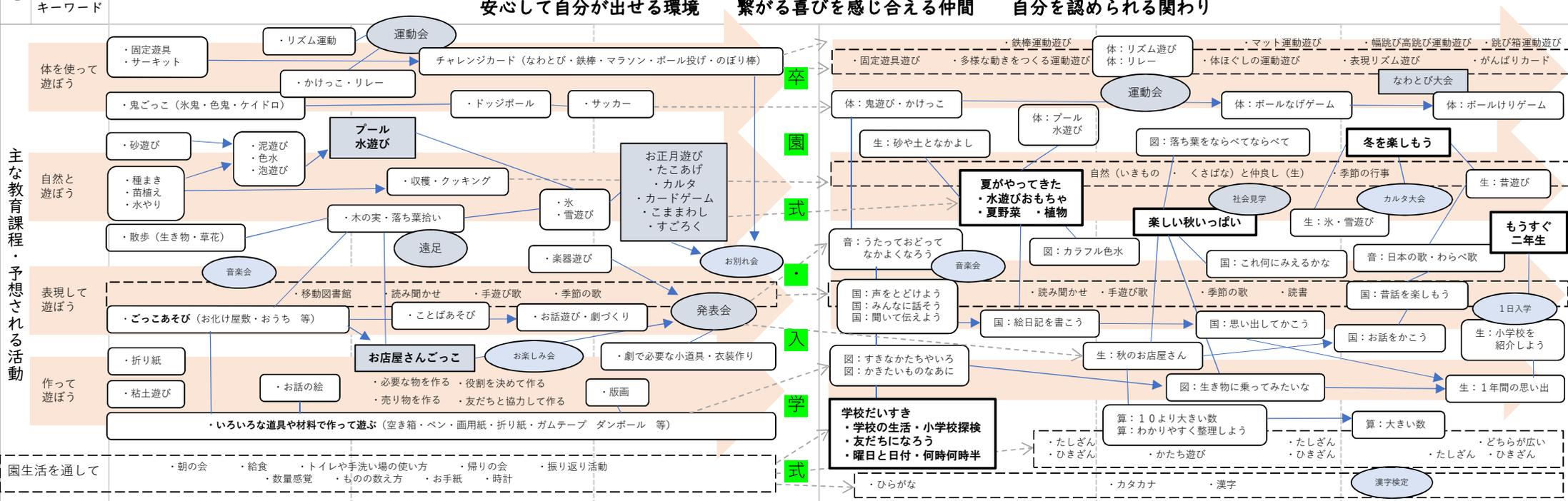
## 5 今後に向けて

研究1年目の今年度は「知る」「やってみる」を軸におき、進めてきた。研究2年目の来年度は「知った違い」を滑らかにする工夫や「知った繋がり」を生かせる工夫を実施・検証したい。また、今年度同様に加配教諭が知ったことを周知し、子どもが安心して自分を表現できる環境と支援について、多くの職員と学び合える環境をつくりたい。

	5歳児			第1学年		
時期	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3

期待する子ども像	自分の思いや考えを言葉で表現できる子ども					
協同性	友だちと一緒に活動することを楽しむ	共通の目的に向かって、友だちと一緒に活動を進めようとする	共通の目的に向かって、協力して、やり遂げようとする	自分の力を発揮し、楽しみながら新しい友だちと学習する	ゴールに向かって、友だちと協力しながら学習する	友だちと話し合いながら試行錯誤し、工夫して学習する。
言葉による伝え合い	自分の気持ちを伝えようとする	自分の思いを伝えたり相手の思いを聞いたりして、遊びを進めようとする	考えや思いを言葉で伝えようとしたり相手の思いに気付いたりする	新たな友だち関係の中でも自分の思いや考えを言葉で伝えようとする	友だちと話し合いながら、学びを進めていく	友だちと話し合いながら、いろいろな考えに出会い、学びを深める

環境単元	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心安定して生活できる環境づくり</li> <li>遊びに見通しがもてる環境づくり（可視化・本の精選・掲示物）</li> <li>やりたいことが実現できる材料や道具の準備</li> <li>友だちと思いや考えを共有できる時間や場の設定（遊びの場・振り返り活動など）</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>学習時間を柔軟に設定 ・学習の間口や内容を広く設定</li> <li>学習計画の掲示 ・並行読書の実施 ・既習事項や成果物の掲示</li> <li>園でやったことを振り返る→それを発展させる単元構成</li> <li>学習することに主体性や達成感をもてる導入やゴール設定の工夫</li> <li>ペアワークやグループワークの実施 ・次の学びに生かす振り返り活動</li> </ul>		
先生の関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人が安心して自分の思いを出せるようにする</li> <li>子ども同士が繋がり合えるように仲立ちに入る</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の良さや成長を認め、充実感をもって生活できるようにする</li> <li>わからないと言える学級で安心して学習できるようにする。</li> <li>授業形態を工夫して子どもたちが繋がり合える場の設定をする。</li> <li>一人一人の良さや頑張りを認める声かけ→認め合える雰囲気づくり</li> </ul>		
キーワード	安心して自分が出せる環境    繋がる喜びを感じ合える仲間    自分を認められる関わり					



		1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
		4月10日	4月11日	4月12日	4月13日	4月14日
		月	火	水	木	金
登校後		♥好きな遊び				
朝学習		♥よみきかせ				
朝の会		♥朝の用意				
1	学	朝の会				
	音	季節の歌 ・おはよ！・春の小川 ・ドキドキトン一年生				
2	音	うたっておどって なかくならろう うたってなかくし				
	★生	どきどきわくわく 1年生 トイレ・手洗い場 みつけ隊				
3	★生	どきどきわくわく 1年生 トイレ・手洗い場 みつけ隊				
	★学	帰りの用意				
4	★学	帰りの会				
	どきどきわくわく1年生 みんなでなかくならたいな					
5	児	おにごっこ				
	児	学年別児童会				
6	★国	みんなにはなそう 体育のふりかえり				
	★生	どきどきわくわく 1年生 文楽員クイズ				
7	★国	みんなにはなそう 体育のふりかえり				
	★生	どきどきわくわく 1年生 給食名人				
8	★国	みんなにはなそう 体育のふりかえり				
	★生	どきどきわくわく 1年生 給食名人				
給食		・トイレ・手洗い・机の上の準備・三角巾 → 消毒 → 自分で取りに来る → へらす → ふやす → いただきます				
昼休み		みんなで教室の掃除				
9	★国	みんなにはなそう 休み時間のふりかえり				
	★国	みんなにはなそう 休み時間のふりかえり				
10	★国	みんなにはなそう 休み時間のふりかえり				
	★国	みんなにはなそう 休み時間のふりかえり				
11	★学	帰りの用意				
	★学	帰りの会 ふりかえり				

入学式

♡のびのび…リラックスして安心できる関係をつくっていく時間

★わくわく…経験を生かして生活科を中心に学習していく時間

☐ぐんぐん…経験を生かして各教科を中心に学習していく時間

### 1ねん よていひょう (No.1)

日	4月10日	4月11日	4月12日	4月13日	4月14日
よう日	げつようび	かようび	すいようび	もくようび	きんようび
ざようじ	にゅうがくしき	あさかい③	しんたいそくてい きゅうしよくかいし	としよつおりえ んてーしょん	
1	にゅうがくしき おめでとう! ～ぎょうから 1ねんせい～	♥がっかつ あさのじゅんぴ あさのかい	♥がっかつ あさのじゅんぴ あさのかい	♥がっかつ あさのかい	♥がっかつ あさのかい
2	くらすのばしよ と せんせいのなま えをおほえま しょう	★せいかつ てあらいば めいじん	★せいかつ おきがえめいじん しんたいそくてい	★こくご としよつうて どなたところ?	★せいかつ そうじばしよて どこ?
3		★せいかつ あさべうじどうかい	★たいりく そとでけんきにあそぼ う	★ずごう すきなものをかこう	♥こくご ひとどうながることば
4		★せいかつ ぶんぼうぐでいす	★こくご よろしくね	★せいかつ そうじめいじん	
5		★ずごう すきなかたちゆるは なにかな?	★こくご きてつたえよう でんごんげえむ	♥どうどく たのしいがっこう	
げごう			2じ30ぶんごろ 1・2ねんげこう	2じ30ぶんごろ 1・3ねんげこう	2じ30ぶんごろ 1・4ねんげこう
もちもの		・ハンカチ ・おどろくばこ (くれよん・のり・ はさみ・いろえんぴ つ) ・おきがさ ・はんがあ	・たいそうふく ・そうきん	・えほんばつぐ	
しゃくだい		①いちばんたのし かったことをはなす ②さんかくきんむす び ③なふだのつけはず し	①いちばんたのし かったことをはなす ②れんらくぶくろの なかみをそろえる ③さんかくきんむす び ④なふだのつけはず し	①れんらくぶくろの なかみをそろえる ②しじょうかいを する ③さんかくきんむす び ④なふだのつけはず し	①いちばんたのし かったことをはなす ②そうじばしよを おしえてあげる ③れんらくぶくろの なかみをそろえる ④さんかくきんむす び ⑤なふだのつけはず し

月日	6日目 4月17日	7日目 4月18日	8日目 4月19日	9日目 4月20日	10日目 4月21日
曜日	月	火	水	木	金
登校後	朝の用意 → すきなあそび				
朝の会	♥ よみきかせ	♥ 校歌	♥ 朝の会	♥ 朝の会	♥ 朝の会
朝学習	♥朝の会	♥朝の会	♥朝の会	♥よみきかせ	★賞読え名人
1	♥国 ようびとひげ ・おひさまにっこり ・ひげのよみかた	♥国 ようびとひげ ・おひさまにっこり ・ひげのよみかた	♥国 よみきかせ おいうえおのうた	♥国 季節の歌 ・ちゅうちょ ・ことりのうた ・ひらいたひらいた	□体 固定員遊び がんばりカード
	♥音 季節の歌 ・ドキドキドン一年生 ・こぶためきつねこ ・ことりのうた	♥音 季節の歌 ・こぶためきつねこ ・チューリップ	□国 ことばをあつめよう 「」	★生 がっこうだいすき 学校の外には なにがあるのかな?	□体 がけっこ 50メートル走
	♥国 ことばあそび しりとり	★生 がっこうだいすき 学校の中には なにがあるのかな?	□国 ひらがなをかこう 「」	★生 がっこうだいすき 学校の外には なにがあるのかな?	□体 がけっこ 51メートル走
2	□国 書写 えんぴつをつかうと きにだしめよう	★生 がっこうだいすき 学校の中には なにがあるのかな?	★国 すきまちゃんを つくろう	★国 おきにいりのぼしよと すきまちゃん	♥国 ことばあそび しりとり
	□国 書写 かいてみよう	★生 がっこうだいすき 学校の中には なにがあるのかな?	★国 すきまちゃんを つくろう	★国 おきにいりのぼしよと すきまちゃん	□国 ことばをあつめよう 「」
	★算 おおいのはどちらか な	□国 書写 かいてみよう	♥国 ことばあそび しりとり	♥国 みんなはなそう あいうえおのた	□国 ひらがなをかこう 「」
中休み	どきどきわくわく1年生 みんなとなかよくなりたいな				
3	♥国 みんなはなそう 中休みのふりかえり	★学 ひとりひとやく	★体 体ほくしの運動 ならんでみよう	♥音 うたっておどってな かよくなる セブンスステップ じゅんげんぼん	□算 なかまづくり
	□算 なかまづくりとかず かずをさがそう	★学 ひとりひとやく	★体 固定員遊び がんばりカード	□算 なかまづくりとかず かずをさがそう	□算 なかまづくり
	□算 なかまづくりとかず かずをさがそう 1・2	★体 体ほくしの運動 すこやかタイム	★生 どきどきわくわく 1年生 賞読え名人	□算 なかまづくりとかず かずをさがそう 8・9・10	★生 がっこうだいすき インタビューへ
4	★生 がっこうだいすき どんな勉強があるの? 校歌	★体 体ほくしの運動 すこやかタイム	□算 なかまづくりとかず かずをさがそう	★国 らよきちよきざり	★生 がっこうだいすき インタビューへ
	★生 がっこうだいすき 1日の生活	♥国 きいてつたえよう 伝言ゲーム	□算 なかまづくりとかず かずをさがそう 5・6・7	★国 らよきちよきざり	★生 がっこうだいすき インタビューへ
	★生 どきどきわくわく 1年生 給食名人	★生 どきどきわくわく 1年生 給食名人	★生 どきどきわくわく 1年生 給食名人	★生 どきどきわくわく 1年生 給食名人	★生 どきどきわくわく 1年生 給食名人
給食	・トイレ・手洗い・机の上の準備・三角巾 → 消毒 → 自分で取りに来る → へらす → ぶやす → いただきます				
昼休み					
掃除					
5	★学 がんばりカードに ついて	□算 なかまづくりとかず かずをさがそう	♥音 うたっておどってな かよくなる セブンスステップ じゅんげんぼん	□国 ことばをあつめよう 「」	★国 あめですよ
	★学 暗題について	□算 なかまづくりとかず かずをさがそう 3・4	♥音 季節の歌 ・こぶためきつねこ ・ことりのうた ・ひらいたひらいた	□国 ひらがなをかこう 「」	★国 あめですよ
	♥学 掃りの用意	♥学 掃りの用意	♥学 掃りの用意	♥学 掃りの用意	♥学 掃りの用意
掃りの会	♥ 掃りの会 ふりかえり	♥ 掃りの会 ふりかえり	♥ 掃りの会 ふりかえり	♥ 掃りの会 ふりかえり	♥ 掃りの会 ふりかえり

♡のびのび…リラックスして安心できる関係をつくっていく時間

★わくわく…経験を生かして生活科を中心に自分たちで学んでいく時間

□ぐんぐん…経験を生かして各教科で新しいことを学んでいく時間

🌸 1ねん よていひょう (No.2) 🌸

日	4月17日	4月18日	4月19日	4月20日	4月21日
曜日	げつようび	かようび	すいようび	もくようび	きんようび
ぎょうじ	きょうざいもうし こみしみきり				
1	♥がっかつ あさのかい	♥がっかつ あさのかい	□こくご ひらがな	★せいかつ がっこうだいすき がっこうたんけん	★たいいく がけっこ
2	□こくご かいてみよう	★せいかつ がっこうだいすき がっこうたんけん	★ずごう すきまちゃんをつく ろう	★ずごう すきまちゃんのしゃ しんをどうろう	□こくご ひらがな
3	□さんすう なかまづくりとかず 1・2	★がっかつ ひとりひとやく	★たいいく がんばりカード	□さんすう なかまづくりとかず 8・9・10	□さんすう なかまづくりとかず
4	★せいかつ がっこうだいすき がっこうせいかつ	★たいいく すこやかタイム	□さんすう なかまづくりとかず 5・6・7	★ずごう ちよきちよきざり	★せいかつ がっこうだいすき
5	★がっかつ しゅくだいや もちものようい	□さんすう なかまづくりとかず 3・4	♥おんかく うたっておどってな かよくなる	□こくご ひらがな	★こくご あめですよ
けさう	2じ50ぶん 1~4ねんげこう	3じ 1・2ねんげこう	2じ30ぶん 1・2ねんげこう	2じ30ぶん しゅうたんげこう	3じ 1・3ねんげこう
もちもの	・さんすうセット ・きょうざいもうし こみ ・きゅうしよくセツト				
しゅくだい	①ぶりんと ②おんどく 「おひさまにっこり」	①ぶりんと ②おんどく 「おひさまにっこり」	①ひらがな「」 ②おんどく 「あいうえおのうた」	①ひらがな「」 ②おんどく 「あいうえおのうた」	①ひらがな「」 ②おんどく 「あめですよ」
☆よいしせいでかきましょう。 ☆えんぴつのもちかたにきをつけましょう。					
☆おはしあらい ☆こぶあらい ☆えんぴつけずり ☆もちものようい この4つは、まいにちしましょう!!					

滋賀県版「架け橋期カリキュラム」実践記録

【 南比都佐小学校区 】 園名 ( 南比都佐小学校・南比都佐幼稚園・こぼと園 )

		5 歳児		
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像		自分の思いや考えを言葉で表現できる子ども ~友だちと一緒に学ぼう~		
<small>しい姿</small> <small>幼</small> 協同性 <small>児</small> <small>期</small> <small>の</small> <small>終</small> <small>わ</small> <small>り</small> <small>ま</small> <small>で</small> <small>に</small> <small>育</small> <small>っ</small> <small>て</small> <small>ほ</small> <small>い</small> <small>姿</small> <small>が</small> <small>見</small> <small>ら</small> <small>れ</small> <small>た</small> <small>子</small> <small>ど</small> <small>も</small> <small>の</small> <small>学</small> <small>び</small> <small>の</small> <small>姿</small>	<small>言葉による</small> <small>伝え合い</small>	友だちと一緒に活動することを楽しむ	共通の目的に向かって、友だちと一緒に活動を進めようとする	共通の目的に向かって、協力して、やり遂げようとする
	自分の気持ちを伝えようとする	自分の思いを伝えたり相手の思いを聞いたりして、遊びを進めようとする	考えや思いを言葉で伝えようとしたり相手の思いに気付いたりする	
<p>「お化け屋敷を作ろう」                      妖怪の絵本が好きな子どもたちは、段ボールでお化け屋敷を作ろうということになりました。                      お化けになって驚かそう！と考えましたが、どうやって作ったらいいかかわらないまま、廊下端のスペースでなんとなく作り始めました。                      明るくて雰囲気が出ないと困っていた子どもたちに、保育者が窓に布や段ボールをかぶせ、少し暗くなるようにしてみました。すると、                      「ここ隠れる場所」                      「向こうが見えないようにドアをつけよう」                      「チケットを受け取る場所」など考え始めました。                      コロナ禍もあり、行ったことがないところはイメージがしにくかったようですが、保育者も遊びの仲間としてアイデアを出しながら作ることで、みんなで楽しみながら作ることができました。                      また、異年齢クラスに招待チケットを配り、お化けになり張りきって脅かす姿が見られたり、反対に5歳児の真似をして脅かし役になって楽しむ3・4歳児の姿も見られました。</p>		<p>「お土産さんごっこをしよう」                      いろいろなものを作っている中でお土産さんごっこを始めた子どもたちは、お土産に買いに来てもらうにはどうしようかと考え始めました。                      「小さい組さんは字より写真の方が分かりやすいかも」と自分たちの今までの成長を振り返ったり                      「小さい組さんはお金がないからチケット配る？」とお化け屋敷の時のことを思い出して案を出したり                      「お母さんがカード入れてお金だしてるからそれ作る？」と生活経験から案を出したりしました。                      また、何度かお客さんを迎える中で                      「マジックショーを見ている人がお土産で買ったものを食べられるように移動販売で売ったらいかな？」                      「映画館のように食べ物も置ける台を作ろう」など友だちと遊びながら、どんどんアイデアが出てきました。ごっこ遊びが苦手な子もいますが、保育者が一人ひとりの様子を受け止め、その子が興味をもてそうなことを提案することで、銀行の人になったりくじ引き屋さんをしたりして参加することができました。                      お客さんが来ると「ちょっとお待ちください」などとお土産さんになりきって、クラスの子ども5人で売り始めました。初めは保育者がお客さんになっていたものの、他のクラスの子が来てくれると気持ちが高ぶり、みんなでお土産さんごっこを楽しむことができました。</p>		

滋賀県版「架け橋期カリキュラム」実践記録 【 南比都佐小学校区 】 園名 ( 南比都佐小学校・南比都佐幼稚園・こぼと園 )

		第1学年		
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像		自分の思いや考えを言葉で表現できる子ども ～友だちと一緒に学ぼう～		
幼児期の終わりに育つてほしい姿 協同性 言葉による伝え合い	自分の力を発揮し、楽しみながら新しい友だちと学習する	ゴールに向かって、友だちと協力しながら学習する	友だちと話し合いながら試行錯誤し、工夫して学習する	
	新たな友だち関係の中でも自分の思いや考えを言葉で伝えようとする	友だちと話し合いながら、学びを進めていく	友だちと話し合う中で、いろいろな考えに出会い、学びを深める	
幼児期の終わりに育つてほしい姿 子どもの学びの姿	<p><b>生活科「はるみつけ」</b>                      1年生の子どもたちは学校裏に出かけ、友だちと協力しながら一生懸命に虫つかみを楽しみました。教室に帰り、理科室から大きな虫かご3つと中くらいの虫かごを2つだけ持って「どうぞ」と差し出しました。ここから子どもたちは「どの虫をどのかごに入れるか」について会議を始めました。                      「大きいのにトンボを入れよう、飛ぶから」                      「それなら蝶も大きいのがいいんじゃない？」                      これで大きい虫かご2つの使い道は決定しました。カナヘビを大事そうに撫でている子が                      「もう一つにはカナヘビ入れたらいいやん」と言う                      「そうや！カナヘビは広い方がいい」と意見が出ました。                      「でもバッタはめっちゃいるで？」「カナヘビやって」                      「カナヘビは中くらいのいいやん」「バッタやって」と会議はどんどん続きます。会議の途中で一人の子が「なんでそう思うん？」と友だちに聞きました。                      「だってバッタはいっぱいで、カナヘビは一匹やし、急に大きいところに入れても葉っぱとか土が足りひんで？」                      この発言を聞き、「たしかに中くらいのなら今よりは広くなるし、葉っぱも足りる」「バッタもみんなまで暮らせる」とうなずく子どもたちでした。理由を伝えながらの話合いのあと、子どもたちみんなが納得した様子で、協力して虫を飼うことができました。</p> 	<p><b>生活科「あきまつり」</b>                      1年生の子どもたちは2年生を招待するために、秋の自然物を使った遊びコーナーを考えました。「自分の作りたいものを作る」ということで、友だちと相談しながらグループで作っている子もいれば、一人で本と向き合って黙々と作っている子もいました。</p>   <p>コーナーが完成に近づき、それぞれのコーナーでお互いに遊んでみる時間を設定しました。                      「難しすぎるからのをもう少し大きくした方がいいよ」                      「どんぐりがはみでちゃうからどうしたらいい？」                      「魚がくっつかないからオナモミを多くしてみたら？」と友だちから意見をもらったり相談したりしながら、自分たちで改善点をどんどん見つけ、解決することができました。また、アドバイスがわかりにくいときには「どうしたらいいってこと？」と聞き直し自分の学びを進めている様子も見られました。</p>		